2026　年度 授業計画(シラバス)　　大阪保健福祉専門学校

学科	介護福祉科　Ⅰ部	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	生命科学Ⅱ	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(2)　時間(単位)
対象学年	2年生	学期及び曜時限	後期　水曜3限	教室名	502
担当教員	翠　ちか	実務経験とその関連資格	看護師として病院勤務(病院・手術室・外来)、派遣ナースでデイケア、老人ホーム・訪問入浴の経験		

《授業科目における学習内容》

全身の器官の構造や働きとその異常について理解する

《成績評価の方法と基準》

試験素点　70%　出席評価点　20%　平常評価点　10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

日本医科大学名誉教授　浅野伍郎　監修　成美堂出版 「からだのしくみ事典」　・ 症状から見る老いと病気とからだ

《授業外における学習方法》

教科書の内容をしっかり読む、国試の過去問題を解く、疑問点はインターネットなどを使用し、理解を深める

《履修に当たっての留意点》

医療用語・専門用語の正しい理解をする。国試に向け、疾患などの病態生理を理解し、説明ができる

授業の方法		内容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	教科書0-2の理解(老い、老人の特徴)ができる	症状からみる老いと病気とからだ	自分で教科書を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	0. 人が老いていく理由　1. 転びやすい、歩くのが困難になった　2. 手足が動かない		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	教科書3-4の理解(脳の動き)ができる	〃	前回の授業内容や教科書の復習をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	3. 忘れっぽくなった　4. 呂律が回らない、話がうまくできない		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	教科書5-6の理解(消化器の働き)ができる	〃	〃
		各コマにおける授業予定	5. 下痢や便秘がある　6. 腰・背中が痛い		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	教科書7-8の理解(目の働き)ができる	〃	〃
		各コマにおける授業予定	7. 手足がしびれる　8. 見えにくい、目がかすむ		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	教科書9-11の理解(腎、泌尿器系の働き)ができる	〃	〃
		各コマにおける授業予定	9. 眠れない　10. めまいがする　11.尿の回数が多い、尿が出にくい		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	教科書12-14の理解(喉頭～呼吸器系の働き)ができる	症状からみる老いと病気とからだ	前回の授業内容や教科書の復習をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	12. 体や足がむくむ　13. むせる、飲みこみにくい　14. 咳や痰がでる		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	教科書15－17の理解(聴覚系、骨・関節・循環器系)ができる	〃	〃
		各コマにおける授業予定	15.耳が遠くなった、耳鳴りがする　16. 足・股が痛い　17. 体重が減った、食欲がない		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	教科書18-20の理解(骨・関節・筋肉、貧血、精神疾患)ができる	〃	〃
		各コマにおける授業予定	18. 手指、肩が痛い　19. 膝が痛い　20. 体がだるい		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	教科書21-23の理解(循環器・皮膚疾患)ができる	〃	〃
		各コマにおける授業予定	21.手足がふるえる　22.心臓がどきどきする　23.体がかゆい		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	教科書24－26の理解(循環器・呼吸器・失禁)ができる	〃	〃
		各コマにおける授業予定	24.息が苦しい　25.尿や便が出るのがわからない　26.うまく噛めない		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	教科書27-29の理解(各症状の病態生理)ができる	〃	〃
		各コマにおける授業予定	27.意識がなくなる、朦朧とする　28.熱がある　29.胸が痛む、締め付けられる		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	教科書30－32の理解(各症状の病理生理)ができる	〃	〃
		各コマにおける授業予定	30. むかつき、吐き気がする　31.おなかが痛い　32.床ずれがある		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	人体の構造を理解した上で疾患についての病態を答えられる	配布資料	〃
		各コマにおける授業予定	総まとめ、国試対策		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	人体の構造を理解した上で疾患についての病態を答えられる	配布資料	〃
		各コマにおける授業予定	総まとめ、国試対策		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	人体の構造を理解した上で疾患についての病態を答えられる	配布資料	〃
		各コマにおける授業予定	総まとめ、国試対策		

2026　年度 授業計画(シラバス)　　大阪保健福祉専門学校

学科	介護福祉科	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	介護の基本Ⅱ	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対象学年	2年生	学期及び曜時限	後期　木曜1・2限	教室名	502.601
担当教員	北川　千尋	実務経験とその関連資格	特別養護老人ホームに、介護福祉士として勤務した。		

《授業科目における学習内容》

介護現場での、利用者を取り巻く様々な形の連携を知り、関連職種や機関の特性なども学ぶことにより、チームケアを担う介護職になることができる。また、介護場面での事故及び感染症対策の具体的な手法を学ぶことができる。

《成績評価の方法と基準》

科目修了試験:70%　出席評価点:20%　平常評価点:10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

中央法規　新・介護福祉士養成講座「介護の基本Ⅱ」

《授業外における学習方法》

授業で行った内容を、教科書や使用した授業プリントなどを用いて復習を行う。また、特に実習前には、授業で得た知識を施設実習で活かすことのできるよう、関連付けておく。

《履修に当たっての留意点》

「介護の基本」で学ぶ様々な資格や役割、利用者との関係や職場のスタッフとのチームワークの重要性をしっかりと理解することが必要です。専門職としての能力を養うため、理解出来ていない状態で終えないよう、また見逃さないよう受講することを期待します。

授業の方法			内容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護における安全の確保とリスクマネジメントを理解することができる。	・教科書　中央法規　新　介護福祉士養成講座「介護の基本Ⅱ」 ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題があれば、実施しておく。
		各コマにおける授業予定	介護の質の向上がリスクマネジメントに繋がることを理解する。また、リスクに強い環境づくりの理解のため、ユニットケア等の復習をする。		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護における安全の確保とリスクマネジメントについて理解を深めることができる。	・教科書　中央法規　新　介護福祉士養成講座「介護の基本Ⅱ」 ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題があれば、実施しておく。
		各コマにおける授業予定	リスクマネジメントに必要な要素を理解する。また、身体拘束について、緊急ややむを得ない場合の対応や死体拘束がもたらす多くの弊害についても学ぶ。		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護における安全の確保とリスクマネジメントについて理解を深めることができる。	・教科書　中央法規　新　介護福祉士養成講座「介護の基本Ⅱ」 ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題があれば、実施しておく。
		各コマにおける授業予定	リスクマネジメントについて、事例を用いてグループワークを行う。		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護における安全の確保とリスクマネジメントについて理解を深めることができる。	・教科書　中央法規　新　介護福祉士養成講座「介護の基本Ⅱ」 ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題があれば、実施しておく。
		各コマにおける授業予定	利用者の生活を守る技術としてのリスクマネジメントの視点を学ぶ。また、利用者を取り巻く介護チームで安全な生活を守るしくみについて理解する。		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護における安全の確保とリスクマネジメントについて理解を深めることができる。	・教科書　中央法規　新　介護福祉士養成講座「介護の基本Ⅱ」 ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題があれば、実施しておく。
		各コマにおける授業予定	生活の場での感染に関する正しい知識の必要性・利用者の特性を理解した感染対策について学ぶ。		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護における安全の確保とリスクマネジメントについて理解を深めることができる。	・教科書　中央法規　新　介護福祉士養成講座「介護の基本Ⅱ」 ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題があれば、実施しておく。
		各コマにおける授業予定	介護施設でみられる感染症の特性や対処方法について学ぶ。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護実践における連携について理解することができる。	・教科書　中央法規　新　介護福祉士養成講座「介護の基本Ⅱ」 ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題があれば、実施しておく。
		各コマにおける授業予定	多職種連携（チームアプローチ）の意義と目的を学ぶ。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護実践における連携について理解を深めることができる。	・教科書　中央法規　新　介護福祉士養成講座「介護の基本Ⅱ」 ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題があれば、実施しておく。
		各コマにおける授業予定	利用者を支援するさまざまな専門職について、基礎的な理解を深め、多職種連携のあり方を学び、チームアプローチの心構えを養う。		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	認知症についての理解を深める。	・教科書　中央法規　新　介護福祉士養成講座「介護の基本Ⅱ」 ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題があれば、実施しておく。
		各コマにおける授業予定	DVD鑑賞。		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護実践における連携について理解を深めることができる。	・教科書　中央法規　新　介護福祉士養成講座「介護の基本Ⅱ」 ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題があれば、実施しておく。
		各コマにおける授業予定	地域連携の意義と目的について学び、地域にはどのような機関や組織があり、どのような役割を果たしているのか、基礎的な理解を深める。		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護実践における連携について理解を深めることができる。	・教科書　中央法規　新　介護福祉士養成講座「介護の基本Ⅱ」 ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題があれば、実施しておく。
		各コマにおける授業予定	地域にはどのような機関や組織があり、どのような役割を果たしているのか、基礎的な理解を深める。地域連携を進めるための、介護職の取るべき行動や考え方について理解する。		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護に携わる人の健康管理について理解する。	・教科書　中央法規　新　介護福祉士養成講座「介護の基本Ⅱ」 ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題があれば、実施しておく。
		各コマにおける授業予定	介護の特徴から、介護職自身の健康管理の必要性を学ぶ。		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護に携わる人の健康管理について理解を深めることができる。	・教科書　中央法規　新　介護福祉士養成講座「介護の基本Ⅱ」 ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題があれば、実施しておく。
		各コマにおける授業予定	介護職に起こりやすいこころとからだの障害（疾病）を学び、心身障害（疾病）の予防と対策を理解する。		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護に携わる人の健康管理について理解を深めることができる。	・教科書　中央法規　新　介護福祉士養成講座「介護の基本Ⅱ」 ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題があれば、実施しておく。
		各コマにおける授業予定	介護職の健康や安全問題について事業者の取り組むべきことを理解し、労働安全対策と安全衛生管理体制などを学ぶ。		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護福祉士として関わる多職種との連携や役割、介護職員自身の健康管理に必要な基礎知識と技術を身に付けることができる。	・教科書　中央法規　新　介護福祉士養成講座「介護の基本Ⅱ」 ・これまでの配布資料全て	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題があれば、実施しておく。
		各コマにおける授業予定	試験に向けて、全15回の振り返りを行う。		

2026　年度　授業計画(シラバス)　　大阪保健福祉専門学校

学　科	介護福祉科	科目区分	専門的分野	授業の方法	講義
科目名	社会の理解Ⅱ	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(2)　時間(単位)
対象学年	2年生	学期及び曜時限	前期　木曜1・2限	教室名	601・502
担当教員	武田　真澄	実務経験とその関連資格	特別養護老人ホームの介護職員、生活相談員、施設ケアマネを経験し医療法人と社会福祉協議会の地域包括支援センターで主任ケアマネジャーとして勤務。現在は居宅介護支援事業所の管理者でケアマネ業務を行っている。社会福祉士・主任介護支援専門員資格		

《授業科目における学習内容》

介護福祉士国家試験の過去問・予想問題を中心に問題を解きながら、解説、テキストへの振り返りを行う。

《成績評価の方法と基準》

科目修了試験:70%　出席評価点:20%　平常評価点10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

社会と制度の理解2　介護福祉士国家試験過去問

《授業外における学習方法》

授業で習った内容の復習と過去問を解く。ニュースや新聞等で福祉施策、高齢者、障害者制度の改正や動向に目を向ける。

《履修に当たっての留意点》

介護福祉士として必要な諸制度を実際の現場で応用できるようわかりやすく伝えます。また、覚えなければならない制度の仕組みについてポイントしっかり押さえていきましょう。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護保険制度にかかわる専門職の役割や内容、介護保険制度の改正内容等理解できる。	教科書 配布プリント	介護福祉士・介護支援専門員・主任介護支援専門員について学習しておく。
		各コマにおける授業予定	介護保険制度による専門職の役割～介護保険制度の動向		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	ICFを理解する。支援費制度～障害者自立支援法～障害者総合支援法を理解できる。	教科書 配布プリント	障害者福祉施策の動向について調べる。
		各コマにおける授業予定	障害者にとっての自立～障害者自立支援制度の仕組み		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	支援費制度～障害者自立支援法～障害者総合支援法を理解できる。	教科書 配布プリント	障害者自立支援法、障害者総合支援法について内容をまとめる。
		各コマにおける授業予定	障害者にとっての自立～障害者自立支援制度の仕組み		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	国、都道府県、市町村の役割について理解できる。	教科書 配布プリント	国、都道府県、市町村の役割をきちんと整理しておく
		各コマにおける授業予定	障害者自立支援制度にかかわる組織とその役割～これからの障害者福祉施策		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	相談支援機関や就学前期の制度や各種機関について理解できる。	教科書 配布プリント	学齢期に活用できる支援制度、相談機関等まとめる。
		各コマにおける授業予定	障害者自立支援制度にかかわる組織とその役割～これからの障害者福祉施策		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	日常生活自立支援制度、成年後見制度について理解できる。	教科書 配布プリント DVD視聴	成年後見制度の種類を覚える。
		各コマにおける授業予定	人々の権利を保護する諸制度～保健医療にかかわる諸施策～医療にかかわる法と諸施策		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	虐待防止の諸制度、医療関係者に関する法制度を理解できる。	教科書 配布プリント	虐待の種類、精神保健福祉法に基づく入院形態の内容を覚える。
		各コマにおける授業予定	人々の権利を保護する諸制度～保健医療にかかわる諸施策～医療にかかわる法と諸施策		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	生活保護制度について扶助の種類が言える。福祉施設の種類を覚えられる。	教科書 配布プリント	保護の種類内容、支給方法を覚える。高齢者・障害者の住まいの種類を整理する。
		各コマにおける授業予定	生活を支える諸制度のあらまし～高齢者・障害者の住生活を支援する諸制度		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	問題の傾向を理解し対応できるようになる。	教科書 配布プリント	プリントを復習し理解できるまでテキストで振り返りを行う。
		各コマにおける授業予定	私たちの生活と社会福祉まとめ国試問題等問題を振り返り、解説を行う。		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	問題の傾向を理解し対応できるようになる。	教科書 配布プリント	プリントを復習し理解できるまでテキストで振り返りを行う。
		各コマにおける授業予定	社会保障のしくみまとめ国試問題等問題を振り返り、解説を行う。		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	問題の傾向を理解し対応できるようになる。	教科書 配布プリント	プリントを復習し理解できるまでテキストで振り返りを行う。
		各コマにおける授業予定	社会保障のしくみまとめ国試問題等問題を振り返り、解説を行う。		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	問題の傾向を理解し対応できるようになる。	教科書 配布プリント	プリントを復習し理解できるまでテキストで振り返りを行う。
		各コマにおける授業予定	介護保険制度まとめ国試問題等問題を振り返り、解説を行う。		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	問題の傾向を理解し対応できるようになる。	教科書 配布プリント	プリントを復習し理解できるまでテキストで振り返りを行う。
		各コマにおける授業予定	介護保険制度まとめ国試問題等問題を振り返り、解説を行う。		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	問題の傾向を理解し対応できるようになる。	教科書 配布プリント	プリントを復習し理解できるまでテキストで振り返りを行う。
		各コマにおける授業予定	障害者自立支援制度～人々の権利を保護する諸制度のまとめ国試問題等問題を振り返り、解説を行う。		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	過去問振り返ることで重要ポイントを理解し国試に対応できる。	教科書 配布プリント	重要ポイントを整理し授業内容を振り返る。
		各コマにおける授業予定	国試問題等の振り返り、重要ポイントの説明。		

2026　年度 授業計画(シラバス)　　大阪保健福祉専門学校

学　科	介護福祉科		科目区分	専門分野	授業の方法	講義演習
科目名	介護の基本Ⅲ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(2)　時間(単位)
対象学年	2年生		学期及び曜時限	前期　火曜2限	教室名	502・3F体育室
担当教員	山本満佐子	実務経験とその関連資格	専門学校にて長年にわたりレクリエーション・インストラクター養成にたずさわっている。また、京都府レクリエーション協会の副会長、さらに指導委員長として養成講習に携わっている。【資格】レクリエーション・コーディネーター、スポーツレクリエーション指導者、障害者スポーツ指導員中級、コミュニケーションファシリテイター、レクリエーションサポーター			

《授業科目における学習内容》

高齢者・障がい者の介護の現場でのレクリエーションにおける声かけの方法やアレンジの方法を体得する。更に現場実習や体験学習を経験する中でレクリエーション財を知り、更にレクリエーション財を自分達で考えたり、工夫しながら、レクリエーション支援者として必要な援助技術を習得する。

《成績評価の方法と基準》

試験(実技・発表・提出物):70%　出席評価点:20%　平常評価点10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

関係資料配布、1年生で学んだテキスト

《授業外における学習方法》

学生の地元や大阪府、さらに各市町村のレクリエーション協会が開催するイベントやボランティア活動に進んで参加したり、1年次での実習をふりかえり、高齢者・障がい者を支える支援者にとってのレクリエーションのあり方を体験をすることで、自立支援につながるレクリエーションを実践できる技術を体得する。

《履修に当たっての留意点》

1年次の授業で学んだことをもとに、高齢者・障がい者を支える支援者にとってのレクリエーションのあり方を実践を通して学ぶ。模擬体験をすることで、自らが「楽しむこと」「笑顔でいること」の大切さを学び、さらに自立支援につながるレクリエーションの方法を学ぶ。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	1年生で学んだ事をふりかえり、今期につなげ、授業の趣旨、内容が理解できるようになる	1年次で記録したノート	1年次の事前復習
		各コマにおける授業予定	前期授業説明と体育館利用上の注意事項 授業の進め方、評価の方法などを説明する		
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	介護現場での音楽レクリエーションの実際を学び実践できるようになる	配布資料 思い出カルタ	講義内容の見直し
		各コマにおける授業予定	介護現場での音楽レクリエーションの在り方を体験する		
第3回	演習形式	授業を通じての到達目標	歌に合わせたオリジナル健康体操ができるようになる	必要なものがあれば、各自準備する	書いたものを見ないで発表できるように、ペアで練習
		各コマにおける授業予定	ペアで健康体操のオリジナルに挑戦		
第4回	演習形式	授業を通じての到達目標	オリジナル健康体操発表 / 高齢障害者のレクリエーション が実践できるようになる	配布資料	書いたものを見ないで発表できるように、ペアで練習
		各コマにおける授業予定	発表		
第5回	演習形式	授業を通じての到達目標	集団コミュニケーションの展開の方法ができるようになる	配布資料	講義内容の復習
		各コマにおける授業予定	グループ分けをして、演習に向けて計画を立てる		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標	グループによるレクリエーション活動の展開ができるようになる	各グループで演習に必要なものを準備	第5回に配った資料の見直し
		各コマにおける授業予定	グループワーク・コミュニケーション　1. 演習		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	グループによるレクリエーション活動の展開ができるようになる	各グループで演習に必要なものを準備	今までに配った資料の見直し
		各コマにおける授業予定	グループワーク・コミュニケーション　2. 演習		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	グループによるレクリエーション活動の展開ができるようになる	各グループで演習に必要なものを準備	今までに配った資料の見直し
		各コマにおける授業予定	グループワーク・コミュニケーション　3. 演習		
第9回	演習形式	授業を通じての到達目標	グループによるレクリエーション活動の展開ができるようになる	各グループで演習に必要なものを準備	今までに配った資料の見直し
		各コマにおける授業予定	グループワーク・コミュニケーション　4. 演習		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	グループによるレクリエーション活動の展開ができるようになる	各グループで演習に必要なものを準備	今までに配った資料の見直し
		各コマにおける授業予定	グループワーク・コミュニケーション　5. 演習		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	グループによるレクリエーション活動の展開ができるようになる	各グループで演習に必要なものを準備	今までに配った資料の見直し
		各コマにおける授業予定	グループワーク・コミュニケーション　6. 演習		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	グループによるレクリエーション活動の展開ができるようになる	各グループで演習に必要なものを準備	今までに配った資料の見直し
		各コマにおける授業予定	グループワーク・コミュニケーション　7. 演習		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	グループによるレクリエーション活動の展開ができるようになる	各グループで演習に必要なものを準備	今までに配った資料の見直し
		各コマにおける授業予定	グループワーク・コミュニケーション　8. 演習		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	グループによるレクリエーション活動の展開ができるようになる	各グループで演習に必要なものを準備	今までに配った資料の見直し
		各コマにおける授業予定	グループワーク・コミュニケーション　9. 演習		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	レクリエーション・インストラクターにとって必要なものは何かを確認することができる	配布資料	今までに配った資料の見直し
		各コマにおける授業予定	介護現場におけるレクリエーション・インストラクターの役割・まとめ		

2026　年度 授業計画(シラバス)　　大阪保健福祉専門学校

学　科	介護福祉科	科目区分	専門分野	授業の方法	演習
科目名	生活支援技術Ⅰ(演習)	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(1)　時間(単位)
対象学年	2年生	学期及び曜時限	後期　火曜日1・2限	教室名	調理実習室
担当教員	西山　貴子	実務経験とその関連資格	介護老人保健施設・病院の管理栄養士として勤務。その後、各種専門学校(調理師・製菓衛生士、介護福祉士等)、栄養士・管理栄養士養成短大・大学等にて講師。その他、特定保健指導、クリニックの栄養指導なども経験。		

《授業科目における学習内容》

介護の現場では、利用者の衣類を修繕したり、調理のサポートが必要となる。被服・調理実習を通して、高齢者の生活の実際と対応を学び、生活支援するための基本技術を習得する。

《成績評価の方法と基準》

試験:70%、出席評価点:20%、平常点:10点

《使用教材(教科書)及び参考図書》

・最新　介護福祉士養成講座6　生活支援技術Ⅰ　中央法規
・(参考)中学や高校等で使用した「家庭総合」の教科書
・(参考)調理の基本(だしの取り方・みそ汁の作り方・野菜の切り方・ゆで型・煮物など)が解説されている料理本
・(参考)高齢者のための調理法や工夫が示された料理本

《授業外における学習方法》

・自分の裁縫道具を持ち、自分や家族の衣類のボタンつけなどの修繕・補修を心掛ける
・「食事は作るもの」という意識をもち、料理を心掛ける。
・1年生で学んだ、特に食生活分野を確認しながら授業の受講をすること。

《履修に当たっての留意点》

・エプロン・三角巾・裁縫道具の準備、調理の練習をしておくこと。・調理実習では、清潔に努め、身だしなみを整えて実習に臨むこと。また、刃物等を使用するため、細心の注意をはらうこと。・レポート等の提出物の提出期限に注意すること。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	調理の基本(手洗い・身支度等)が理解・実践できる。 献立の立て方・行事食について理解・復習する。	・教科書「最新/介護福祉士養成講座6　生活支援技術Ⅰ」 ・配布レジュメ	・日頃から自炊をすること ・体調にあわせた「食」を考え実践すること ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	調理の基本 手洗い・身支度・献立の立て方・行事食について		
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	調理実習の心構えや調理の基本操作が理解・実践できる。	・教科書「最新/介護福祉士養成講座6　生活支援技術Ⅰ」 ・配布レジュメ	・日頃から自炊をすること ・体調にあわせた「食」を考え実践すること ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	調理実習のオリエンテーション・調理の基本操作 ・調理実習を始める前の心構え・調理室の使い方・野菜の切り方・計量・だしの摂り方について		
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	だしの種類、取り方、ご飯の炊き方、野菜の切り方、作り方について理解し、実習に向けて班でどのように実習を行うか計画を立てることができる。	・教科書「最新/介護福祉士養成講座6　生活支援技術Ⅰ」 ・配布レジュメ	・日頃から自炊をすること ・体調にあわせた「食」を考え実践すること ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	調理実習のレシピ説明 作り方の説明及びポイント等について		
第4回	実習形式	授業を通じての到達目標	だしをとる、ご飯を炊く、野菜の切り方、計量をきちんと理解・実践できる。	・教科書「最新/介護福祉士養成講座6　生活支援技術Ⅰ」 ・配布レジュメ	・日頃から自炊をすること ・体調にあわせた「食」を考え実践すること ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	調理実習:和食の基本 ・ご飯、だしの取り方(合わせだし、煮干しだし)、味噌汁、だし巻き卵、ほうれん草のお浸し、切干大根の煮物)		
第5回	実習形式	授業を通じての到達目標	和食の配膳が出来る。調理過程を考察する。調理器具・食器類を元の位置に衛生的に片づけられる。一連の流れを実践出来る。	・教科書「最新/介護福祉士養成講座6　生活支援技術Ⅰ」 ・配布レジュメ	・日頃から自炊をすること ・体調にあわせた「食」を考え実践すること ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	調理実習:和食の基本 ・ご飯、だしの取り方(合わせだし、煮干しだし)、味噌汁、だし巻き卵、ほうれん草のお浸し、切干大根の煮物)		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	高齢者の食への配慮や嚥下・嚥下困難な食について理解できる。	・教科書「最新/介護福祉士養成講座6　生活支援技術Ⅰ」 ・配布レジュメ	・日頃から自炊すること ・「嚥下困難」について復習し学びを深めておく ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	介護食について ・摂食機能を考慮した調理形態・調理の工夫について		
第7回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	「容易にかめる」「歯ぐきでつぶせる」「舌でつぶせる」「かまなくてよい」を理解する。作り方について理解し、実習に向けて班でどのように実習を行うか計画を立てる。	・教科書「最新/介護福祉士養成講座6　生活支援技術Ⅰ」 ・配布レジュメ	・日頃から自炊すること ・「嚥下困難」について復習し学びを深めておく ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	調理実習（介護食）のレシピ説明 作り方の説明及びポイント等について		
第8回	実習形式	授業を通じての到達目標	介護食「容易にかめる」「歯ぐきでつぶせる」「舌でつぶせる」の違いを理解・実践できる。	・教科書「最新/介護福祉士養成講座6　生活支援技術Ⅰ」 ・配布レジュメ	・日頃から自炊すること ・「嚥下困難」について復習し学びを深めておく ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	調理実習：介護食 ・全粥、鮭そぼろ、豆腐ハンバーグ、ほうれん草とはんぺんのお浸し、マッシュかぼちゃ、白玉豆腐		
第9回	実習形式	授業を通じての到達目標	介護食「容易にかめる」「歯ぐきでつぶせる」「舌でつぶせる」の違いを理解・実践できる。調理過程を考察する。調理器具・食器類を元の位置に衛生的に片づけられる。一連の流れを実践出来る。	・教科書「最新/介護福祉士養成講座6　生活支援技術Ⅰ」 ・配布レジュメ	・日頃から自炊すること ・「嚥下困難」について復習し学びを深めておく ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	調理実習：介護食 ・全粥、鮭そぼろ、豆腐ハンバーグ、ほうれん草とはんぺんのお浸し、マッシュかぼちゃ、白玉豆腐		
第10回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	被服生活の基本を理解・実践できる。	・教科書「最新/介護福祉士養成講座6　生活支援技術Ⅰ」 ・配布レジュメ	・簡単な衣類の修繕（ボタン付けなど）は、自分で行うこと ・日頃から自炊すること ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	被服生活の基本 ・被服とは・和服・被服の管理・被服の素材・被服の洗濯について		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	衣類の修繕・補修に必要な基本となる裁縫技術を身につけることが出来る。（玉結び・玉止め・なみ縫い・半返し縫い・本返し縫い・まつり縫い、ボタン付け）	・教科書「最新/介護福祉士養成講座6　生活支援技術Ⅰ」 ・配布レジュメ	・簡単な衣類の修繕（ボタン付けなど）は、自分で行うこと ・日頃から自炊すること ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	被服実習について 被服の裁縫・被服実習の説明・必要な物		
第12回	実習形式	授業を通じての到達目標	基本となる裁縫技術を用いて作品を作り、裁縫技術の向上が出来る。	・教科書「最新/介護福祉士養成講座6　生活支援技術Ⅰ」 ・配布レジュメ	・簡単な衣類の修繕（ボタン付けなど）は、自分で行うこと ・日頃から自炊すること ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	被服実習 作品制作（モンキーソックス）		
第13回	実習形式	授業を通じての到達目標	基本となる裁縫技術を用いて作品を作り、裁縫技術の向上が出来る。	・教科書「最新/介護福祉士養成講座6　生活支援技術Ⅰ」 ・配布レジュメ	・簡単な衣類の修繕（ボタン付けなど）は、自分で行うこと ・日頃から自炊すること ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	被服実習 作品制作（モンキーソックス）		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	基本となる裁縫技術を用いて作品を作り、裁縫技術の向上が出来る。作業をより美しく・早く・確実に行うことが出来る。	・教科書「最新/介護福祉士養成講座6　生活支援技術Ⅰ」 ・配布レジュメ	・簡単な衣類の修繕（ボタン付けなど）は、自分で行うこと ・日頃から自炊すること ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	被服実習 作品制作（モンキーソックス）作品　提出		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	調理実習・被服実習で学んだことを介護の現場で生かすことができるようになる。	・教科書「最新/介護福祉士養成講座6　生活支援技術Ⅰ」 ・配布レジュメ	・レジュメの復習 ・練習問題・まとめプリントを実施すること
		各コマにおける授業予定	まとめ ・調理実習・被服実習で学んだこと、身についたことについてまとめる		

2026　年度　授業計画(シラバス)

学　科	介護福祉科		科目区分	専門分野	授業の方法	演習
科目名	生活支援技術Ⅲ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(1)　時間(単位)
対象学年	2年生		学期及び曜時限	前期　火曜3限	教室名	502.介護実習室
担当教員	尾崎　朱理	実務経験とその関連資格	介護福祉士として介護老人保健施設にて5年勤務			

《授業科目における学習内容》

・自立支援を重視し、事例に基づいて支援内容を考え実践できるようになる。
・グループで支援内容を考え、チームで取り組む力を身につけることができる。
・事例問題を繰り返し実施し、応用力が身につくようになる。
・介護観を確立することができる

《成績評価の方法と基準》

科目終了試験(70%)　出席評価点(20%)　平常点(10%)

《使用教材(教科書)及び参考図書》

中央法規出版　新・介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅱ」　第2版
中央法規出版　実技試験のチェックポイント
国学評価社　わかる介護技術DVD　介護福祉士国試実技試験対策　第2版

《授業外における学習方法》

教科書の指定部分、プリント(チェックシート)を確認し、介護技術の基本と応用を予習・復習しておく

《履修に当たっての留意点》

・グループ力をつけられるよう、常にチームで協力する。
・介護技術の基本を理解した上で、応用力を身につける

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	授業オリエンテーションを通じて授業で学ぶことを理解する。 障害別の支援を学ぶ意義を理解する。	新・介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅲ」第2版	教科書の指定した範囲を読んでおく。1年生で学んだ介護技術を復習しておく。
		各コマにおける授業予定	授業オリエンテーション 利用者の状態・状況に応じた生活支援技術を理解する。		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	利用者の爪の状態を理解できる 利用者にとって安心・安全な爪切りの技術を習得できる	新・介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅱ」第2版	教科書の指定した範囲を読んでおく。1年生の理論で学んだことを復習しておく。
		各コマにおける授業予定	整容(爪切り)について技術習得を目指す		
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	転倒時の対応、観察ポイントについて理解できる	新・介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅱ」第2版	教科書の指定した範囲を読んでおく。1年生で学んだ介護技術を復習しておく。
		各コマにおける授業予定	講義から根拠をまなび、事例検討		
第4回	演習形式	授業を通じての到達目標	グループで考えたケアを実演し、改善することができる	新・介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅱ」第2版	発表時の担当を確認し準備・練習しておく。
		各コマにおける授業予定	事例検討から利用者への配慮事項を考えロールプレイができる		
第5回	演習形式	授業を通じての到達目標	事例問題を読み解き、それぞれの意見を統合して統一されたケアを考えることができる	新・介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅱ」第2版	教科書の指定した範囲を読んでおく。1年生で学んだ介護技術を復習しておく。
		各コマにおける授業予定	実技問題:拘縮のある方の更衣について(グループで事例検討)		

授業の方法		内　　容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標	事例問題を読み解き、それぞれの意見を統合して統一されたケアを考えることができる	新・介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅱ」第2版	教科書の指定した範囲を読んでおく。1年生で学んだ介護技術を復習しておく。
		各コマにおける授業予定	実技問題：寝たままのかぶりの衣類の着脱について（グループで事例検討）		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	事例問題を読み解き、それぞれの意見を統合して統一されたケアを考えることができる	新・介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅱ」第2版	教科書の指定した範囲を読んでおく。1年生で学んだ介護技術を復習しておく。
		各コマにおける授業予定	実技：スライドシートの使用方法について		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護技術以外の医療的な支援について理解を深めることができる	新・介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅱ」第2版	教科書の指定した範囲を読んでおく。1年生で学んだ介護技術を復習しておく。
		各コマにおける授業予定	ストマ・尿道留置カテーテルについての理解		
第9回	演習形式	授業を通じての到達目標	様々な立位状況の方にあったトイレ誘導の技術を身に着けられる	新・介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅱ」第2版	教科書の指定した範囲を読んでおく。1年生の演習で学んだことを復習しておく。
		各コマにおける授業予定	排泄介助（トイレ誘導）について（パットの上げ下げ）		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	様々な立位状況の方にあったトイレ誘導の技術を身に着けられる	新・介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅱ」第2版	教科書の指定した範囲を読んでおく。1年生の演習で学んだことを復習しておく。
		各コマにおける授業予定	排泄介助（トイレ誘導）について 実際のトイレで誘導を練習		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	立位保持の困難な方の移乗介助を身に付けることができる	新・介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅱ」第2版　実技試験チェックポイント	教科書の指定した範囲を読んでおく。1年生の演習で学んだことを復習しておく。
		各コマにおける授業予定	ボディメカニクスを活用し介護者・利用者双方に負担ない技術を実践できる		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	事例問題を読み解き、それぞれの意見を統合して統一されたケアを考えることができる	実技国家試験過去問題	教科書の指定した範囲を読んでおく。1年生で学んだ介護技術を復習しておく。
		各コマにおける授業予定	国家試験実技問題（グループで事例検討）		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	グループで考えたケアを実演し、改善することができる	実技国家試験過去問題	発表時の担当を確認し準備・練習しておく。
		各コマにおける授業予定	国家試験実技問題（グループで事例検討）		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	他のグループ発表に疑問を持ち質問することができる。 自身に取り入れることができる	実技国家試験過去問題	発表時の担当を確認し準備・練習しておく。
		各コマにおける授業予定	国家試験実技問題（グループで事例検討）		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	前期のまとめ、前期試験に向けて	新・介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅱ」第2版　実技試験チェックポイント	前期で学んだ内容を復習し、実践できるようにしておく。
		各コマにおける授業予定	前期のまとめ、技術の振り返り、国家試験過去問		

2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	介護福祉科	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	介護過程Ⅰ	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(2)　時間(単位)
対象学年	2年生	学期及び曜時限	前期 木曜日3限	教室名	502
担当教員	上木大雅	実務経験とその関連資格	介護福祉士 介護老人保健施設にて5年勤務		

《授業科目における学習内容》

これまでに学んだ介護の知識、技術を活かし介護過程を展開する上で利用者の個別性を理解する。介護計画を立案を通じて、利用者主体の適切な介護サービスの意味を理解できるようにする。

《成績評価の方法と基準》

科目終了試験:70%　出席評価:20%　平常評価点10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

最新　介護福祉士養成講座9　介護過程第2版(中央法規)　ヘルプマンに学ぶ介護過程(中央法規)

《授業外における学習方法》

実習で作成した介護計画の振り返りをしておく。事例問題の際は、事前に連絡するので事例を読んでおくこと。介護実習での介護計画の立案・実施

《履修に当たっての留意点》

介護現場において根拠のある生活支援をするために必要な内容です。学内の講義と実習での演習を繋ぐ学びを意識すること。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護過程の実践的展開、実習で作成した介護計画を振り返り学ぶことができる。	最新　介護福祉士養成講座9　介護過程第2版　ヘルプマンに学ぶ介護過程	・教科書を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	授業オリエンテーション、介護過程、実習で作成した介護計画の振り返り		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習を振り返り、介護過程の展開を学び、理解できる。	最新　介護福祉士養成講座9　介護過程第2版　ヘルプマンに学ぶ介護過程	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。プリントを見直す。
		各コマにおける授業予定	介護過程の展開　情報収集～情報の解釈・関連付け・統合化		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習を振り返り、介護過程の展開を学び、理解できる。	最新　介護福祉士養成講座9　介護過程第2版　ヘルプマンに学ぶ介護過程	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。プリントを見直す。
		各コマにおける授業予定	介護過程の展開　介護計画の立案、介護の実施、評価		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習を振り返り、介護過程の展開を学び、理解できる。	最新　介護福祉士養成講座9　介護過程第2版　ヘルプマンに学ぶ介護過程	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。プリントを見直す。
		各コマにおける授業予定	介護過程の展開　介護の実施の記録表の作成と評価の記入について		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護過程の実践的展開、介護計画の立案ができる。	最新　介護福祉士養成講座9　介護過程第2版　ヘルプマンに学ぶ介護過程	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。プリントを見直す。
		各コマにおける授業予定	介護計画事例実践①　アセスメント(情報収集、情報の解釈・関連付け・統合化)		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護過程の実践的展開、介護計画の立案ができる。	最新　介護福祉士養成講座9　介護過程第2版　ヘルプマンに学ぶ介護過程	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。プリントを見直す。
		各コマにおける授業予定	介護計画事例実践②　生活課題の明確化、介護計画の立案		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護過程の実践的展開、介護計画の立案ができる。	最新　介護福祉士養成講座9　介護過程第2版　ヘルプマンに学ぶ介護過程	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。プリントを見直す。
		各コマにおける授業予定	介護計画事例実践③　介護計画の立案、実施記録表の作成		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護過程　国家試験対策①　学習理解が深められる。	最新　介護福祉士養成講座9　介護過程第2版　ヘルプマンに学ぶ介護過程	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。プリントを見直す。
		各コマにおける授業予定	介護過程国家試験ミニテストの実施、解答解説		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護過程　国家試験対策②　学習理解が深められる。	最新　介護福祉士養成講座9　介護過程第2版　ヘルプマンに学ぶ介護過程	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。プリントを見直す。
		各コマにおける授業予定	介護過程国家試験ミニテストの実施、解答解説		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護過程の実践的展開、介護計画を立案できる。	最新　介護福祉士養成講座9　介護過程第2版　ヘルプマンに学ぶ介護過程	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。プリントを見直す。
		各コマにおける授業予定	事例より、介護計画の立案ができる。（アセスメント）		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護過程の実践的展開、介護計画を立案できる。	最新　介護福祉士養成講座9　介護過程第2版　ヘルプマンに学ぶ介護過程	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。プリントを見直す。
		各コマにおける授業予定	事例より、介護計画の立案ができる。（計画の立案）		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護過程の実践的展開、介護計画を立案できる。	最新　介護福祉士養成講座9　介護過程第2版　ヘルプマンに学ぶ介護過程	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。プリントを見直す。
		各コマにおける授業予定	事例より、介護計画の立案ができる。（計画の立案）		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護計画の作成を振り返り、介護過程の展開について理解を深められる。	最新　介護福祉士養成講座9　介護過程第2版　ヘルプマンに学ぶ介護過程	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。プリントを見直す。
		各コマにおける授業予定	作成した介護計画について、グループで共有し意見を出し合う。		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護計画の作成を振り返り、介護過程の展開について理解を深めることができる。	最新　介護福祉士養成講座9　介護過程第2版　ヘルプマンに学ぶ介護過程	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。プリントを見直す。
		各コマにおける授業予定	施設実習に向けて介護計画の振り返り		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	前期のまとめを通し、振り返りができる。	最新　介護福祉士養成講座9　介護過程第2版　ヘルプマンに学ぶ介護過程	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。プリントを見直す。
		各コマにおける授業予定	前期のまとめ、テストについての説明。		

2026　年度　授業計画(シラバス)　　大阪保健福祉専門学校

学　科	介護福祉科	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	介護過程Ⅲ	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(2)　時間(単位)
対象学年	2年生	学期及び曜時限	前期　月曜3限	教室名	502
担当教員	清水　公二	実務経験とその関連資格	介護福祉士 特別養護老人ホームにて約10年勤務		

《授業科目における学習内容》

これまで学んだ介護の知識、技術を活かし介護過程を展開する上で利用者に個別性を理解する。また、介護計画を立案し利用者主体の適切な介護サービスの意味を理解できるようにする。

《成績評価の方法と基準》

科目修了試験:70%　出席評価点:20%　平常評価点10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

教科書:新・介護福祉士養成講座　介護過程

《授業外における学習方法》

介護実習において介護計画の立案・実施

《履修に当たっての留意点》

介護現場において根拠ある生活支援をするために必要な内容です。学内の講義と実習での演習を繋ぐ学びを意識すること。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	業界セミナーに参加し、各施設に理念や概要、取り組みなどの情報を得て比較分析し研究することができる	・配布資料	関連する施設のパンフレットやホームページをよく見ておくこと
		各コマにおける授業予定	業界セミナー授業開始に向けての導入教育、今後の予定について		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	業界セミナーに参加し、各施設に理念や概要、取り組みなどの情報を得て比較分析し研究することができる	・配布資料	関連する施設のパンフレットやホームページをよく見ておくこと
		各コマにおける授業予定	福祉業界の専門領域の知識を、施設職員と積極的にコミュニケーションをとることによって理解することができる		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	業界セミナーに参加し、各施設に理念や概要、取り組みなどの情報を得て比較分析し研究することができる	・配布資料	関連する施設のパンフレットやホームページをよく見ておくこと
		各コマにおける授業予定	福祉業界の専門領域の知識を、施設職員と積極的にコミュニケーションをとることによって理解することができる		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	業界セミナーに参加し、各施設に理念や概要、取り組みなどの情報を得て比較分析し研究することができる	・配布資料	関連する施設のパンフレットやホームページをよく見ておくこと
		各コマにおける授業予定	福祉業界の専門領域の知識を、施設職員と積極的にコミュニケーションをとることによって理解することができる		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	業界セミナーに参加し、各施設に理念や概要、取り組みなどの情報を得て比較分析し研究することができる	・配布資料	関連する施設のパンフレットやホームページをよく見ておくこと
		各コマにおける授業予定	福祉業界の専門領域の知識を、施設職員と積極的にコミュニケーションをとることによって理解することができる		

授業の方法		内　　容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	業界セミナーに参加し、各施設に理念や概要、取り組みなどの情報を得て比較分析し研究することができる	・配布資料	関連する施設のパンフレットやホームページをよく見ておくこと
		各コマにおける授業予定	福祉業界の専門領域の知識を、施設職員と積極的にコミュニケーションをとることによって理解することができる		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	業界セミナーに参加し、各施設に理念や概要、取り組みなどの情報を得て比較分析し研究することができる	・配布資料	関連する施設のパンフレットやホームページをよく見ておくこと
		各コマにおける授業予定	福祉業界の専門領域の知識を、施設職員と積極的にコミュニケーションをとることによって理解することができる		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	業界セミナーに参加し、各施設に理念や概要、取り組みなどの情報を得て比較分析し研究することができる	・配布資料	関連する施設のパンフレットやホームページをよく見ておくこと
		各コマにおける授業予定	福祉業界の専門領域の知識を、施設職員と積極的にコミュニケーションをとることによって理解することができる		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	業界セミナーに参加し、各施設に理念や概要、取り組みなどの情報を得て比較分析し研究することができる	・配布資料	関連する施設のパンフレットやホームページをよく見ておくこと
		各コマにおける授業予定	福祉業界の専門領域の知識を、施設職員と積極的にコミュニケーションをとることによって理解することができる		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	業界セミナーに参加し、各施設に理念や概要、取り組みなどの情報を得て比較分析し研究することができる	・配布資料	関連する施設のパンフレットやホームページをよく見ておくこと
		各コマにおける授業予定	福祉業界の専門領域の知識を、施設職員と積極的にコミュニケーションをとることによって理解することができる		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	業界セミナーに参加し、各施設に理念や概要、取り組みなどの情報を得て比較分析し研究することができる	・配布資料	関連する施設のパンフレットやホームページをよく見ておくこと
		各コマにおける授業予定	福祉業界の専門領域の知識を、施設職員と積極的にコミュニケーションをとることによって理解することができる		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	業界セミナーに参加し、各施設に理念や概要、取り組みなどの情報を得て比較分析し研究することができる	・配布資料	関連する施設のパンフレットやホームページをよく見ておくこと
		各コマにおける授業予定	福祉業界の専門領域の知識を、施設職員と積極的にコミュニケーションをとることによって理解することができる		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	業界セミナーに参加し、各施設に理念や概要、取り組みなどの情報を得て比較分析し研究することができる	・配布資料	関連する施設のパンフレットやホームページをよく見ておくこと
		各コマにおける授業予定	福祉業界の専門領域の知識を、施設職員と積極的にコミュニケーションをとることによって理解することができる		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	業界セミナーに参加し、各施設に理念や概要、取り組みなどの情報を得て比較分析し研究することができる	・配布資料	関連する施設のパンフレットやホームページをよく見ておくこと
		各コマにおける授業予定	福祉業界の専門領域の知識を、施設職員と積極的にコミュニケーションをとることによって理解することができる		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	業界セミナーに参加し、各施設に理念や概要、取り組みなどの情報を得て比較分析し研究することができる	・配布資料	関連する施設のパンフレットやホームページをよく見ておくこと
		各コマにおける授業予定	福祉業界の専門領域の知識を、施設職員と積極的にコミュニケーションをとることによって理解することができる		

2026　年度　授業計画(シラバス)　　大阪保健福祉専門学校

学　科	介護福祉科	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	認知症の理解	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(2)　時間(単位)
対象学年	2年生	学期及び曜時限	前期　木曜4限	教室名	502
担当教員	山野　博子	実務経験とその関連資格	実務経験:特別養護老人ホーム・老人保健施設・訪問介護での勤務32年 関連資格:介護福祉士・介護支援専門員		

《授業科目における学習内容》

認知症の本質や認知症の人の心理状態、認知症特有の症状やケア、認知症を取り巻く社会環境などを正しく理解し、認知症の人に対する適切な全人的ケアを提供できるようになる知識を習得できる。

《成績評価の方法と基準》

出席(20%)、レポート課題・参加度(10%)、試験(70%)

《使用教材(教科書)及び参考図書》

最新　介護福祉士養成講座13　認知症の理解(中央法規)

《授業外における学習方法》

指定した教科書を事前に読んでおくこと、毎回授業の最初に前回授業内容についての確認をするので、復習しておくこと。

《履修に当たっての留意点》

認知症について基本的な知識と技術を備えることができるよう目標をもって取り組むこと。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	認知症の原因疾患、中核症状、周辺症状についての理解ができるようになる。	最新・介護福祉士養成講座13認知症の理解	前期で使用した教科書の内容やプリントを復習する。
		各コマにおける授業予定	前期の復習(認知症の原因疾患、中核症状、周辺症状)		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	認知症の人の体験・本人本位の視点について学び、立場による視点を理解できるようになる。	最新・介護福祉士養成講座13認知症の理解	使用教材123ページから137ページまでを読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	事例などを通じて、認知症の人の体験・本人本位の視点について学ぶ。		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	認知症の人の体験・本人本位の視点について学び、立場による視点を理解できるようになる。	最新・介護福祉士養成講座13認知症の理解	使用教材123ページから137ページまでを読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	事例などを通じて、認知症の人の体験・本人本位の視点について学ぶ。		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	認知症の人の思いを理解し、支援内容を考えるための基本を学び、理解できる。	最新・介護福祉士養成講座13認知症の理解	使用教材123ページから137ページまでを読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	認知症当事者の視点からみえるもの		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	これまでの認知症を取り巻く背景を学び、認知症ケアの今後の方向性について考えることができる。	最新・介護福祉士養成講座13認知症の理解	使用教材100ページから109ページまでを読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	認知症を取り巻く状況　これまで－今－これから		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	認知症ケアの理念と倫理、認知症の人とのかかわりについて学び理解できる。	最新・介護福祉士養成講座13認知症の理解	使用教材110ページから121ページまでを読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	認知症ケアの理念と視点		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	パーソン・センタード・ケアを理解し、認知症の人の言動の背景にはさまざまな要因が影響していることを学び理解できる。	最新・介護福祉士養成講座13認知症の理解	使用教材140ページから179ページまでを読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	パーソン・センタード・ケア／認知症の人の理解と認知症の人の特性をふまえたアセスメント・ツール		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	認知症の人とのコミュニケーションにおける留意点について理解できる。認知症の人の生活障害へのケアについて理解できる。	最新・介護福祉士養成講座13認知症の理解	使用教材181ページから215ページまでを読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	認知症の人とのコミュニケーション／認知症の人へのケア		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護を受ける人の能力をうばわない重要性を学び、介護のゴールは相手とよい関係を築くことであると理解できる。	最新・介護福祉士養成講座13認知症の理解	使用教材217ページから235ページまでを読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	認知症の人へのさまざまなアプローチ		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	終末期における高齢者の現状、認知症の人がかかえる課題を理解できる。	最新・介護福祉士養成講座13認知症の理解	使用教材237ページから243ページまでを読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	認知症の人の終末期医療と介護		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	環境の要素を理解し、とくに認知症の人にとっての物理的環境の役割と重要性を知ることができる。	最新・介護福祉士養成講座13認知症の理解	使用教材245ページから255ページまでを読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	環境づくり		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	家族介護者を支える介護福祉職の役割を理解する。また、介護福祉職が現場でやりがいをもって、安心して働き続けられる環境を整備する方法を学び、理解できる。	最新・介護福祉士養成講座13認知症の理解	使用教材258ページから291ページまでを読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	家族への支援／介護福祉職への支援		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	新オレンジプランに位置づけられた機関やサービスを理解できる。	最新・介護福祉士養成講座13認知症の理解	使用教材294ページから305ページまでを読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	制度、サービス、期間、地域づくり		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	認知症の人が地域で継続して暮らすために、多職種連携と協働が必要であることを理解できる。	最新・介護福祉士養成講座13認知症の理解	使用教材306ページから321ページまでを読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	多職種連携と協同		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	今まで学んできた認知症についての理解を深めることができる。	最新・介護福祉士養成講座13認知症の理解	今までの授業で使用した教科書の内容やプリントを復習する。
		各コマにおける授業予定	後期のまとめ		

2026　年度 授業計画(シラバス)　　大阪保健福祉専門学校

学　科	介護福祉科		科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	発達と老化の理解		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対象学年	2年生		学期及び曜時限	後期　月2限	教室名	502
担当教員	西涼子・楠田明美	実務経験とその関連資格	看護師 18年(病棟 施設 訪問)　介護支援専門員 4年(施設) ／看護師(急性・慢性・高齢)と介護福祉士育成教員(教員資格有)の経験を活かし、実習や国家試験に役立つよう講義を行う			

《授業科目における学習内容》

1 人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化における老化を理解する。
2 高齢者に多くみられる疾病、症状を理解できる
3 1, 2より対人支援の際の基本的な知識を学修し、実際の生活援助につなげられる

《成績評価の方法と基準》

科目終了試験:70%　出席評価点:20%　平常評価点:10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

教科書:『介護福祉士養成講座12　発達と老化の理解』　中央法規

《授業外における学習方法》

授業内で授業の振り返り 練習問題等の理解を確かめる試験問題を配布する。国家試験、科目修了試験に関係するので自己学習は必ずすること。テキストは読んでおくこと。

《履修に当たっての留意点》

心理学用語 医学用語 と多くの専門用語がでてくるが、今の理解が将来にわたって役に立つので積極的に取り組んで欲しい

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	老化にともなう身体的な変化　110～117P 加齢にともなって維持の仕方が変化するホメオシタシスについて理解できる。 フレイル ロコモティヴシンドローム サルコペニアについて理解できる。	介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解	指定したテキストの範囲を読んでくること
		各コマにおける授業予定	老化にともなう身体的な変化についての講義 恒常性の維持のための4つの能力とその変化 骨関節系の老化による心身の変化をフレイル ロコモティヴシンドローム サルコペニアを通して理解する		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	老化にともなう身体的な変化118～121P 脳・神経系の仕組みを復習し理解が深められる 脳の代謝 神経系の働きの低下を理解できる。	介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解	指定したテキストの範囲を読んでくること
		各コマにおける授業予定	脳の構造や神経系を用語を含めて再確認する 脳の代謝 神経系の働きの低下を 体温調節の仕組みを通して 理解する		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	老化にともなう身体的な変化 121～126p 視覚 聴覚 平衡感覚 味覚 臭覚 皮膚 の変化について理解できる。	介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解	指定したテキストの範囲を読んでくること
		各コマにおける授業予定	いわゆる5感の老化により生活機能がどのように変化せざるを得ないかを、医学的知識の裏付けを持って知る		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	老化にともなう身体的な変化 126～130P 血液 循環器系の変化について理解できる 呼吸器系の変化について再確認し理解を深める	介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解	指定したテキストの範囲を読んでくること
		各コマにおける授業予定	血圧の仕組み 筋ポンプ機能の低下にともなう下肢静脈瘤 左室肥大 等について学ぶ 呼吸筋の老化による 息切れ 効率の悪いガス交換について学ぶ		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	老化にともなう身体的な変化 131～142P 消化器 泌尿器 生殖器 内分泌代謝 免疫の仕組みにつて理解が深められる 消化器 泌尿器 生殖器 内分泌代謝 免疫機能の低下でおこる生活への影響を理解できる	介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解	指定したテキストの範囲を読んでくること
		各コマにおける授業予定	嚥下と誤嚥のメカニズムを再確認 頻尿 残尿 の理由を医学的裏付けから知る 失禁 子宮脱等の骨盤底筋群の老化症状を知る 甲状腺機能低下の状態を中心に内分泌の老化を知る 免疫の仕組みを再確認する		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	老化に伴う心理的変化と生活への影響　143～162P 老化による認知機能・知的機能の変化について理解できる 老化によるパーソナリティの変化について理解できる 老化による適応や動機付けの影響を理解できる	介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解	指定したテキストの範囲を読んでくること
		各コマにおける授業予定	認知機能の変化による心理的影響を視覚、聴覚、注意機能、記憶から考える。 知的機能の変化、パーソナリティの変化についての学説を知る 老化と動機付け　適応　適応障害について例で考える		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	老化に伴う社会的な変化と生活の影響　164~183P 高齢者が社会の中で直面する課題と社会への参加状況が分かる 社会との関係からとらえた老化理論を理解できる	介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解	指定したテキストの範囲を読んでくること
		各コマにおける授業予定	社会の中での生活上の課題 社会への参加状況を知る 老化理論の概要を知る		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者の健康が注目される背景がわかる。184～201P エイジングにつての理論を知る 高齢者に多い症状・疾患の特徴 が理解できる	介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解	指定したテキストの範囲を読んでくること
		各コマにおける授業予定	高齢者の健康寿命が社会の課題となった背景と、健康寿命を延ばすための政策を学ぶ。 サクセスフルエイジング　プロダクティブエイジング　アクティブエイジング学ぶ 高齢者の症状や疾患の特徴を学ぶ 高齢者に特有な症候について学ぶ		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点　202～216P 骨格系・筋系の疾患を理解し その生活上の課題が理解できる	介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解	指定したテキストの範囲を読んでくること
		各コマにおける授業予定	骨粗鬆症　骨折　変形性膝関節症　関節リウマチ　変形性脊椎症　脊柱管狭窄症についてその病態生理を学び 生活上の課題を知る		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点　217～ 227P 脳・神経系　目　耳　皮膚　の疾患を理解し その生活上の課題が理解できる	介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解	指定したテキストの範囲を読んでくること
		各コマにおける授業予定	パーキンソン病　脳血管障害　白内障　緑内障　黄斑変性症　感音性難聴 老人性皮膚掻痒症　に ついてその病態生理を学び 生活上の課題を知る		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点　217～241p 循環器系　呼吸器系 の疾患を理解し その生活上の課題が理解できる	介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解	指定したテキストの範囲を読んでくること
		各コマにおける授業予定	高血圧症　虚血性心疾患　心不全　閉塞性動脈硬化症　慢性閉塞性肺疾患　喘息　結核 に ついてその病態生理を学び 生活上の課題を知る		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点　241～ 251P 消化器系　腎・泌尿器系　の疾患を理解し その生活上の課題が理解できる	介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解	指定したテキストの範囲を読んでくること
		各コマにおける授業予定	消化性潰瘍　逆流性食道炎　肝硬変　前立腺疾患　尿路感染症　慢性腎不全に ついてその病態生理を学び 生活上の課題を知る		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点　251～265P 内分泌代謝系　歯・口腔　の疾患を理解し その生活上の課題が理解できる	介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解	指定したテキストの範囲を読んでくること
		各コマにおける授業予定	糖尿病　脂質異常症　痛風　虫歯　歯周病　ドライマウス に ついてその病態生理を学び 生活上の課題を知る		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点　265～271P 悪性新生物について学びその生活上の課題が理解できる	介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解	指定したテキストの範囲を読んでくること
		各コマにおける授業予定	胃がん　肺がん　大腸がん　について病態生理を学び 生活上の課題を知る		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点271～287p 感染症　精神疾患　熱中症など に ついてその疾患を理解し生活上の課題を知れる	介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解	指定したテキストの範囲を読んでくること
		各コマにおける授業予定	インフルエンザ　感染性胃腸炎　胆嚢炎　疥癬　うつ病　統合失調症　熱中症　脱水症　貧血について病態生理を学び 生活上の課題を知る		

2026　年度　授業計画（シラバス）　　大阪保健福祉専門学校

学　科	介護福祉科	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	こころとからだのしくみⅡ	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(2)　時間(単位)
対象学年	2年生	学期及び曜時限	後期　火曜4限	教室名	502
担当教員	立脇　一美	実務経験とその関連資格	看護師としての臨床経験が約30年。社会福祉士として介護認定審査会委員を約20年。介護支援専門員・認知症ケア専門士の資格あり。		

《授業科目における学習内容》

人間の生活行為の一つひとつには、なぜその行為を行うのかという理由や根拠が必ず存在する。またその行為を遂行するために、タイムリーに「こころ」と「からだ」の機能が柔軟に変化し続け、同時に双方がバランスを保っている。特に高齢者や障害者などは心身機能の低下が生活機能に及ぼす影響が大きく、具体的には現場において、心身機能を考慮した上での質的対応が必要となる。
一つの生活行為に随伴してからだの中でどのようなことが起こっているのか、解剖生理学的な理解を中心に、生活援助の妥当性について説明することができる。

《成績評価の方法と基準》

科目修了試験:70%　出席評価点:20%　平常評価点:10%

《使用教材（教科書）及び参考図書》

教科書:新・介護福祉士養成講座こころとからだのしくみ（中央法規）

《授業外における学習方法》

次回授業予定の内容について、教科書の該当範囲を熟読しておくこと（1時間程度）。
授業終了後、板書内容や教科書を中心にまとめ、次回の授業に臨むこと(1時間程度)。
地域の高齢者や障害者の生活パターンに興味をもって観察を行い、実際に接する機会をもつなど、日常的な意識化を図ること。

《履修に当たっての留意点》

精神的・身体的・社会的な健康を理解したうえで、利用者の健康状態を判断する基準、そして介護福祉士として利用者の生活の困難さを測る基準となる知識をしっかりと理解していきましょう。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢期に多い疾患について理解することができる。	・教科書 新・介護福祉士養成講座こころとからだのしくみ	予習:教科書の該当範囲を読む(1時間程度). 復習:板書内容や教科書を中心にまとめ、ノート整理を行う（1時間程度）
		各コマにおける授業予定	生活習慣病、パーキンソン症候群、関節リウマチに焦点を当てて講義を行う。		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢期に多い疾患について理解することができる。	・教科書 新・介護福祉士養成講座こころとからだのしくみ	予習:教科書の該当範囲を読む(1時間程度). 復習:板書内容や教科書を中心にまとめ、ノート整理を行う（1時間程度）
		各コマにおける授業予定	糖尿病、鉄欠乏性貧血に焦点を当てて講義を行う。		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢期に多い疾患について理解することができる。	・教科書 新・介護福祉士養成講座こころとからだのしくみ	予習:教科書の該当範囲を読む(1時間程度). 復習:板書内容や教科書を中心にまとめ、ノート整理を行う（1時間程度）
		各コマにおける授業予定	花粉症、気管支喘息に焦点を当てて講義を行う。		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢期に多い疾患について理解することができる。	・教科書 新・介護福祉士養成講座こころとからだのしくみ	予習:教科書の該当範囲を読む(1時間程度). 復習:板書内容や教科書を中心にまとめ、ノート整理を行う（1時間程度）
		各コマにおける授業予定	腎盂腎炎、膀胱炎に焦点を当てて講義を行う。		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢期に多い疾患について理解することができる。	・教科書 新・介護福祉士養成講座こころとからだのしくみ	予習:教科書の該当範囲を読む(1時間程度). 復習:板書内容や教科書を中心にまとめ、ノート整理を行う（1時間程度）
		各コマにおける授業予定	アトピー性皮膚炎、疥癬に焦点を当てて講義を行う。		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	睡眠に関するメカニズムや、質の高い睡眠を得る方法について理解することができる。	・教科書 新・介護福祉士養成講座こころとからだのしくみ	予習：教科書の該当範囲を読む(1時間程度). 復習：板書内容や教科書を中心にまとめ、ノート整理を行う(1時間程度)
		各コマにおける授業予定	レム睡眠やノンレム睡眠の機序と自律神経・ホルモンとの関連性に焦点を当てて講義を行う。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢期における睡眠の特徴や、睡眠に関する疾患について理解することができる。	・教科書 新・介護福祉士養成講座こころとからだのしくみ	予習：第1回から第13回までの授業内容を振り返り、教科書の該当ページを読み返す(1時間程度). 復習：配布資料や板書内容を中心にまとめ、ノート整理を行う(1時間程度)
		各コマにおける授業予定	レム睡眠行動障害、周期性四肢麻痺、睡眠時無呼吸症候群などに焦点を当てて講義を行う。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	人生の最終段階における「死」の捉え方について理解することができる。	・教科書 新・介護福祉士養成講座こころとからだのしくみ	予習：第1回から第13回までの授業内容を振り返り、教科書の該当ページを読み返す(1時間程度). 復習：配布資料や板書内容を中心にまとめ、ノート整理を行う(1時間程度)
		各コマにおける授業予定	生物学的死、人生の最終段階における医療のあり方、アドバンス・ディレクティブ、インフォームド・コンセントについて講義を行う。		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	「死」に対する心理的変化を理解することができる。	・教科書 新・介護福祉士養成講座こころとからだのしくみ	予習：第1回から第13回までの授業内容を振り返り、教科書の該当ページを読み返す(1時間程度). 復習：配布資料や板書内容を中心にまとめ、ノート整理を行う(1時間程度)
		各コマにおける授業予定	キュブラ・ロスの「死」の受容プロセス、全人的トータルペイン、死の準備教育について講義を行う。		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	終末期から危篤状態におけるからだの変化について理解し、具体的に対応することができる。	・教科書 新・介護福祉士養成講座こころとからだのしくみ	予習：第1回から第13回までの授業内容を振り返り、教科書の該当ページを読み返す(1時間程度). 復習：配布資料や板書内容を中心にまとめ、ノート整理を行う(1時間程度)
		各コマにおける授業予定	終末期から臨終期における身体の変化およびその対応について講義を行う。		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	過去に出題された問題を解き、その解答とそれを導く考え方やポイントについて学び、知識を深めることができる。	・教科書 新・介護福祉士養成講座こころとからだのしくみ	予習：第1回から第13回までの授業内容を振り返り、教科書の該当ページを読み返す(1時間程度). 復習：配布資料や板書内容を中心にまとめ、ノート整理を行う(1時間程度)
		各コマにおける授業予定	国家試験対策①		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	過去に出題された問題を解き、その解答とそれを導く考え方やポイントについて学び、知識を深めることができる。	・教科書 新・介護福祉士養成講座こころとからだのしくみ	予習：第1回から第13回までの授業内容を振り返り、教科書の該当ページを読み返す(1時間程度). 復習：配布資料や板書内容を中心にまとめ、ノート整理を行う(1時間程度)
		各コマにおける授業予定	国家試験対策②		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	過去に出題された問題を解き、その解答とそれを導く考え方やポイントについて学び、知識を深めることができる。	・教科書 新・介護福祉士養成講座こころとからだのしくみ	予習：第1回から第13回までの授業内容を振り返り、教科書の該当ページを読み返す(1時間程度). 復習：配布資料や板書内容を中心にまとめ、ノート整理を行う(1時間程度)
		各コマにおける授業予定	国家試験対策③		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	過去に出題された問題を解き、その解答とそれを導く考え方やポイントについて学び、知識を深めることができる。	・教科書 新・介護福祉士養成講座こころとからだのしくみ	予習：第1回から第13回までの授業内容を振り返り、教科書の該当ページを読み返す(1時間程度). 復習：配布資料や板書内容を中心にまとめ、ノート整理を行う(1時間程度)
		各コマにおける授業予定	国家試験対策④		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	過去に出題された問題を解き、その解答とそれを導く考え方やポイントについて学び、知識を深めることができる。	・教科書 新・介護福祉士養成講座こころとからだのしくみ	予習：第1回から第13回までの授業内容を振り返り、教科書の該当ページを読み返す(1時間程度). 復習：配布資料や板書内容を中心にまとめ、ノート整理を行う(1時間程度)
		各コマにおける授業予定	国家試験対策⑤		

2026　年度　授業計画(シラバス)　　大阪保健福祉専門学校

学　科	介護福祉科	科目区分	基礎分野	授業の方法	講義演習
科目名	介護福祉特講(介護予防)	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(2)　時間(単位)
対象学年	2年生	学期及び曜時限	後期　木曜1・2限	教室名	502・602
担当教員	加藤　明英	実務経験とその関連資格	■実務経験 株式会社ティップネスでパーソナルトレーナー活動9年、大学での非常勤講師3年 ■資格 (公財)日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー、健康運動指導士		

《授業科目における学習内容》

高齢者に対しての運動指導に関する理解、必要な知識、技術について自ら体験することで学習する。

《成績評価の方法と基準》

試験:70%　出席率:20%　平常評価点:10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

介護予防運動トレーナー養成テキスト

《授業外における学習方法》

テキストを参考に復習を行う。また、授業で得た知識を実際に施設実習での活動に関連付けていく。

《履修に当たっての留意点》

介護の現場において高齢者へ運動指導することは必須になってきています。
今回の講義・実技を通して実際に自ら体験して適切に高齢者への運動指導が行えるようイメージしながら学習しましょう。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	高齢者に対する筋力向上トレーニングの必要性、効果を説明できる。	テキスト	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	高齢者に対する筋力向上トレーニングの目的と効果を理解する。		
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	高齢者に対するトレーニング方法と注意点を理解し、指導ができる。	テキスト	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	高齢者に対するトレーニング方法と注意点、説明の仕方を理解する。		
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	高齢者に対するストレッチングの目的・効果を理解し、指導ができる。	テキスト	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	高齢者に対するストレッチング指導時の注意点等の伝え方を理解する。		
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	転倒予防の必要性を理解する。	テキスト	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	高齢者が転倒しやすくなる原因を理解する。		
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	転倒予防の運動指導ができる。	テキスト	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	転倒予防の必要性を理解し、予防方法を理解する。		

授業の方法		内　　容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	体力測定の意義・活用法を理解し説明できる。	テキスト	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	体力測定についての講義		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	正しく体力測定を行うことができる。	テキスト	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	高齢者体力測定実習1		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	正しく体力測定を行うことができる。	テキスト	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	高齢者体力測定実習2		
第9回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	高齢者にとって必要なトレーニングを理解し説明できる。	テキスト	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	高齢者トレーニングについての講義・実習1		
第10回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	高齢者にとって必要なトレーニングを理解し説明できる。	テキスト	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	高齢者トレーニングについての講義・実習2		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	高齢者にとって必要なトレーニングを理解し説明できる。	テキスト	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	高齢者トレーニングについての講義・実習3		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	高齢者トレーニングプログラム作成を行えるようになる。	テキスト	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	高齢者トレーニングプログラム作成についての講義1		
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	身体機能の向上を目的としたレクリエーションプログラムの作成ができる。	・これまでの配布資料すべて	・配布資料を用いて復習する。
		各コマにおける授業予定	身体機能の向上を目的としたレクリエーションプログラムのをグループごとに作成する。		
第14回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	身体機能を向上を目的としたレクリエーションプログラムの指導ができる。	・これまでの配布資料すべて	・配布資料を用いて復習する。
		各コマにおける授業予定	身体機能の向上を目的としたレクリエーションプログラムをグループごとに発表する。		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	身体機能を向上を目的としたレクリエーションプログラムの指導ができる。	・これまでの配布資料すべて	・配布資料を用いて復習する。
		各コマにおける授業予定	身体機能の向上を目的としたレクリエーションプログラムをグループごとに発表する。		

2026　年度 授業計画(シラバス)

学科	介護福祉科	科目区分	基礎分野	授業の方法	講義実習
科目名	情報科学	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対象学年	2年	学期及び曜時限	前期 火曜1限	教室名	大阪ハイテクPCルーム
担当教員	BSC	実務経験とその関連資格			

《授業科目における学習内容》

この授業では、これからの社会生活に必要とされるデータサイエンスの知識・技能のうち、基礎的な統計手法について、Excelを用いてを習得する。また、プレゼンテーションの基本についても学習する。

《成績評価の方法と基準》

出席(20%)、平常点(10%)、課題・小テスト点(70%)

《使用教材(教科書)及び参考図書》

イーラーニングテキスト
対面授業、オンライン(ライブ)、オンデマンドの3つの授業形態(ハイフレックス型授業)で、テキストや動画を見ながら学生が独学できるようデザインされた教材です。講義は基礎分野と応用分野に分類されています。

《授業外における学習方法》

自宅等にインターネットにつながったPCがあれば、イーラーニングで自習できます。
欠席した場合は次の週までに課題を済ませて下さい。

《履修に当たっての留意点》

出席することが一番重要ですので、欠席しないように受講してください。

授業の方法		内容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	CANVAを使ってビジュアルガイドを作成できる1	CANVA登録&ビジュアルガイド作成1	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	法的責任(PL法)/画像生成、正しい画像の使い方/多面的に探る、整える、深める/正確性の確認/Canvaで資料作成(ガイドブック)/ワーク(共有)		
第2回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	Canvaを使って資料を作成できる2	ビジュアルガイド作成2	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	法的責任(PL法)/画像生成、正しい画像の使い方/多面的に探る、整える、深める/正確性の確認/Canvaで資料作成(ガイドブック)/ワーク(共有)		
第3回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	何を伝えるかを簡潔に示したスライドの作成の設計ができる	プレゼン基礎1設計	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	アウトライン作成		
第4回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	レイアウト、配色等、デザインに考慮した図解を作成できる	プレゼン基礎2図解	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	図解の活用		
第5回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	表の活用・図表の効果的な表現をすることができる	プレゼン基礎3表・図表	イーラーニングテキストで講義の内容を確認することができます。
		各コマにおける授業予定	表・図表の活用		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	画像とグラフの効果的な活用ができる	プレゼン基礎4 画像・グラフ	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	画像とグラフの活用		
第7回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	効果的なアニメーション効果の設定について理解し活用できる	プレゼン基礎5 アニメーション	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	特殊効果		
第8回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	プレゼンテーションを実施し評価することができる(1)	プレゼン基礎7 発表	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	抄録発表/評価		
第9回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	データの特徴を数値化できる （平均、分散、標準偏差）	初級データサイエンス(統計編)1	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	平均と分散の意味と求め方/標準偏差の意味と求め方		
第10回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	データの特徴を視覚化できる1 （基本統計量を求める、ヒストグラムの作成）	初級データサイエンス(統計編)2	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	分析ツールの使用/基本統計量の算出/度数分布表(ヒストグラム)の作成/標準偏差のグラフ図示		
第11回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	データの特徴を視覚化できる2 （散布図、相関係数を求める）	初級データサイエンス(統計編)3	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	散布図を作成し、相関関係の有無を視覚的に表す/相関係数の算出		
第12回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	統計的検定を実施できる	初級データサイエンス(統計編)4	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	母集団・標本・抽出について/統計的検定の手法について/t検定(一対の標本、等分散、不等分散)/F検定		
第13回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	統計的手法を選択して利用できる	初級データサイエンス(統計編)5	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	データの分類(質的データ、量的データ)、検定後の結論の書き方、統計手法の復習		
第14回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	分散分析の意味とその使い分けについて理解できる	初級データサイエンス(統計編)6	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	1元配置の分散分析(対応のない因子の場合)/2元配置の分散分析(対応のある因子の場合)/独立性の検定(カイ2乗検定)/死亡率・生存率・罹患率の算出		
第15回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	分析やAI活用に適したデータを取得から加工まで効率的に扱うことができる	データクレンジング	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	データクレンジングとは/データクレンジングの具体例/データの種類/統計表における機械判別可能なデータ作成に関する表記方法(総務省　統計局)/データクレンジング実践(リスト修正)/クレンジングデータを使っての分析		

2026　年度　授業計画（シラバス）　　大阪保健福祉専門学校

学　科	介護福祉科	科目区分	基礎分野	授業の方法	演習
科目名	介護福祉研究	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(1)　時間(単位)
対象学年	2年生	学期及び曜時限	後期　金曜3限目	教室名	501・502・PCルーム
担当教員	上村　茜	実務経験とその関連資格	関西国際大学大学院にて修士課程を修了。臨床心理士、公認心理師の資格を所持し、カウンセラーとして勤務している。		

《授業科目における学習内容》

高齢者・家族にとってのより良い生活、楽しみ、活動の支援・介助についてグループ研究として取り組む。
知識を専門的に身につけ、現場の気付きから科学的な手続きを通して幅広く共有可能な形にまとめて、論文を作成・発表することができる。

《成績評価の方法と基準》

グループ評価研究計画書70%、出席20%、平常評価点10%

《使用教材（教科書）及び参考図書》

教科書:「卒業研究発表技法」 藤雅茂　志田秀史　山口敦

《授業外における学習方法》

研究のテーマは、臨床の現場に数多く存在します。常に、クリティカルな考えが持つことが良い研究テーマと出会えます。ものの考え方など訓練することをおすすめします。

《履修に当たっての留意点》

介護福祉研究では学生自らが主体的に行います。グループでの取り組みとなるため、お互いに協力して進めていきましょう。教員はあくまでも助言する立場であるため積極的に進めてください。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	演習形式	授業を通じての到達目標	優秀演題選好のためのスライドや発表原稿を作成することができる。論文の形式に沿って、分かりやすくまとめることができる	教科書:「卒業研究発表技法」 藤雅茂　志田秀史　山口敦	教科書の関連する項目を読んでおく
		各コマにおける授業予定	過去の卒業研究論文集を読んで、どのような論文の流れを項目順、図表を見て、イメージすることができる、選考基準を理解する		
第2回	演習形式	授業を通じての到達目標	優秀演題選好のためのスライドや発表原稿を作成することができる。論文の形式に沿って、分かりやすくまとめることができる	教科書:「卒業研究発表技法」 藤雅茂　志田秀史　山口敦	教科書の関連する項目を読んでおく
		各コマにおける授業予定	過去の卒業研究論文集を読んで、どのような論文の流れを項目順、図表を見て、イメージすることができる、選考基準を理解する		
第3回	演習形式	授業を通じての到達目標	優秀演題選好のためのスライドや発表原稿を作成することができる。論文の形式に沿って、分かりやすくまとめることができる	教科書:「卒業研究発表技法」 藤雅茂　志田秀史　山口敦	教科書の関連する項目を読んでおく
		各コマにおける授業予定	過去の卒業研究論文集を読んで、どのような論文の流れを項目順、図表を見て、イメージすることができる、選考基準を理解する		
第4回	演習形式	授業を通じての到達目標	効果的に制限時間内におさえたスライドを作成することができる 質疑応答の準備ができる	教科書:「卒業研究発表技法」 藤雅茂　志田秀史　山口敦	教科書の関連する項目を読んでおく
		各コマにおける授業予定	優秀演題中間発表の場で効果的に制限時間内におさまるように作成することを理解する　どのような質問にも答えられるようにすることを理解する		
第5回	演習形式	授業を通じての到達目標	優秀演題グループとポスター発表グループに分かれ、卒業研究発表会準備をすることができる	教科書:「卒業研究発表技法」 藤雅茂　志田秀史　山口敦	教科書の関連する項目を読んでおく
		各コマにおける授業予定	優秀演題グループとポスター発表グループ各々の流れ、方法を理解する		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標	優秀演題グループとポスター発表グループに分かれ、卒業研究発表会準備をすることができる	教科書:「卒業研究発表技法」 藤雅茂　志田秀史　山口敦	教科書の関連する項目を読んでおく
		各コマにおける授業予定	効果的なプレゼンテーションを理解する		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	歯ぢ票準備、演題用スライド制作、ポスター印刷、ポスター発表、原稿作成をすることができる	教科書:「卒業研究発表技法」 藤雅茂　志田秀史　山口敦	教科書の関連する項目を読んでおく
		各コマにおける授業予定	効果的なプレゼンテーションを理解する		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	優秀演題グループとポスター発表グループに分かれ、卒業研究発表会準備をすることができる	教科書:「卒業研究発表技法」 藤雅茂　志田秀史　山口敦	教科書の関連する項目を読んでおく
		各コマにおける授業予定	効果的なプレゼンテーションを理解する		
第9回	演習形式	授業を通じての到達目標	論文形式に沿った論文を作成することができる　質疑応答の項目を文章に追加編集することができる	教科書:「卒業研究発表技法」 藤雅茂　志田秀史　山口敦	教科書の関連する項目を読んでおく
		各コマにおける授業予定	卒業研究論文作成に必要な事柄を理解する		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	論文形式に沿った論文を作成することができる　質疑応答の項目を文章に追加編集することができる	教科書:「卒業研究発表技法」 藤雅茂　志田秀史　山口敦	教科書の関連する項目を読んでおく
		各コマにおける授業予定	卒業研究論文作成に必要な事柄を理解する		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	論文形式に沿った論文を作成することができる　グラフや表を作成し、分かりやすく表示することができる　参考文献を漏れなく記入することができる	教科書:「卒業研究発表技法」 藤雅茂　志田秀史　山口敦	教科書の関連する項目を読んでおく
		各コマにおける授業予定	卒業研究論文作成に必要な事柄を理解する		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	論文形式に沿った論文を作成することができる　グラフや表を作成し、分かりやすく表示することができる　参考文献を漏れなく記入することができる	教科書:「卒業研究発表技法」 藤雅茂　志田秀史　山口敦	教科書の関連する項目を読んでおく
		各コマにおける授業予定	記載基準を理解する		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	論文形式に沿った論文を作成することができる　グラフや表を作成し、分かりやすく表示することができる　参考文献を漏れなく記入することができる	教科書:「卒業研究発表技法」 藤雅茂　志田秀史　山口敦	教科書の関連する項目を読んでおく
		各コマにおける授業予定	記載基準を理解する		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	論文形式に沿った論文を作成することができる　グラフや表を作成し、分かりやすく表示することができる　参考文献を漏れなく記入することができる	教科書:「卒業研究発表技法」 藤雅茂　志田秀史　山口敦	教科書の関連する項目を読んでおく
		各コマにおける授業予定	記載基準を理解する		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	論文形式に沿った論文を作成することができる　グラフや表を作成し、分かりやすく表示することができる　参考文献を漏れなく記入することができる	教科書:「卒業研究発表技法」 藤雅茂　志田秀史　山口敦	教科書の関連する項目を読んでおく
		各コマにおける授業予定	記載基準を理解する		

2026　年度　授業計画(シラバス)　　大阪保健福祉専門学校

学　科	介護福祉科	科目区分	基礎分野	授業の方法	講義演習
科目名	介護福祉特講(介護予防)	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(2)　時間(単位)
対象学年	2年生	学期及び曜時限	前期　木曜1・2限	教室名	502/601
担当教員	加藤　明英	実務経験とその関連資格	■実務経験 株式会社ティップネスでパーソナルトレーナー活動9年、大学での非常勤講師3年 ■資格 (公財)日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー、健康運動指導士		

《授業科目における学習内容》

高齢者に多い病気の発症メカニズムを理解し、病気の予防、健康寿命を延ばすための方法を習得する。

《成績評価の方法と基準》

試験:70%　出席率:20%　平常評価点:10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

参考図書:健康運動指導士養成講習会テキスト上・下

《授業外における学習方法》

授業で配布した資料を用いて復習を行う。

《履修に当たっての留意点》

日本は超高齢社会に突入し、従来の医療制度、老人保険制度では対応しきれない問題が生じています。
その問題の解決方法の一つとして健康寿命の延伸があります。
健康寿命の延伸方法について学び、実践することが日本の課題の解決策の一つであることを理解しましょう。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	運動の目的と効果について説明できる。	・配布資料	・新聞等で医療費問題について記事を読み、日本の現状を理解する。
		各コマにおける授業予定	運動の効果について理解する。 低負荷の運動の目的と効果を理解する。		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	ストレッチングの種類とそれぞれの特徴を説明できる。	・配布資料	・配布資料を用いて復習する。
		各コマにおける授業予定	ストレッチングの種類ごとの目的と効果を理解する。		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	スタティックストレッチングの運動プログラムを作成できる。	・配布資料	・配布資料を用いて復習する。
		各コマにおける授業予定	スタティックストレッチングの目的と効果を理解する。		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	ダイナミックストレッチングの運動プログラムを作成できる。	・配布資料	・配布資料を用いて復習する。
		各コマにおける授業予定	ダイナミックストレッチングの目的と効果を理解する。		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	トレーニング理論を理解し、説明できる。	・配布資料	・配布資料を用いて復習する。
		各コマにおける授業予定	トレーニングの原則を理解する。		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	トレーニングマシンの特徴と効果について説明できる。	・配布資料	・配布資料を用いて復習する。
		各コマにおける授業予定	トレーニングマシンを利用した運動の目的と効果を理解する。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	トレーニングマシンを用いたトレーニングプログラムが作成できる。	・配布資料	・配布資料を用いて復習する。
		各コマにおける授業予定	トレーニングマシンを利用した運動の目的と効果を理解する。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	ダンベルやチューブの特徴と効果について説明できる。	・配布資料	・配布資料を用いて復習する。
		各コマにおける授業予定	ダンベルやチューブを使用した運動の目的と効果を理解する。		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	ダンベルやチューブを用いたトレーニングプログラムが作成できる。	・配布資料	・配布資料を用いて復習する。
		各コマにおける授業予定	ダンベルやチューブを使用した運動の目的と効果を理解する。		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	有酸素運動の特徴と効果について説明できる。	・配布資料	・配布資料を用いて復習する。
		各コマにおける授業予定	有酸素運動の目的と効果を理解する。		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	有酸素運動のトレーニングプログラムが作成できる。	・配布資料	・配布資料を用いて復習する。
		各コマにおける授業予定	有酸素運動の目的と効果を理解する。		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	運動を継続するための方法を考え、実践できる。	・配布資料	・配布資料を用いて復習する。
		各コマにおける授業予定	運動を継続することによる運動効果について理解する。		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	健康維持・増進するためのライフスタイルを提案できる。	・これまでの配布資料すべて	・配布資料を用いて復習する。
		各コマにおける授業予定	健康維持・増進するためにどのような生活をすればよいか、グループごとに考える。		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	健康維持・増進するためのライフスタイルを提案できる。	・これまでの配布資料すべて	・配布資料を用いて復習する。
		各コマにおける授業予定	健康維持・増進するためにどのような生活をすればよいか、グループごとに考え、発表する。		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	健康維持・増進するためのライフスタイルを提案できる。	・これまでの配布資料すべて	・配布資料を用いて復習する。
		各コマにおける授業予定	健康維持・増進するためにはどのような生活をすればよいか、グループごとに考え、発表する。		

2026　年度 授業計画(シラバス)　　大阪保健福祉専門学校

学　科	介護福祉科	科目区分	基礎分野	授業の方法	演習
科目名	介護福祉研究	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(1)　時間(単位)
対象学年	2年生	学期及び曜時限	前期　木曜3限	教室名	502・PCルーム
担当教員	上村　茜	実務経験とその関連資格	関西国際大学大学院にて修士課程を修了。臨床心理士、公認心理士としてカウンセラーとして勤務している。		

《授業科目における学習内容》

高齢者・家族にとってのより良い生活、楽しみ、活動の支援・介助についてグループ研究として取り組む。
知識を専門的に身につけ、現場の気付きから科学的な手続きを通して幅広く共有可能な形にまとめて、論文を作成・発表することができる。

《成績評価の方法と基準》

グループ評価研究計画書70%、出席20%、平常評価点10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

教科書:「卒業研究発表技法」 藤雅茂　志田秀史　山口敦
Google Scholar, CiNii

《授業外における学習方法》

研究のテーマは、臨床の現場に数多く存在します。常に、クリティカルな考えが持つことが良い研究テーマと出会えます。ものの考え方など訓練することをおすすめします。

《履修に当たっての留意点》

介護福祉研究では学生自らが主体的に行います。グループでの取り組みとなるため、お互いに協力して進めていきましょう。教員はあくまでも助言する立場であるため積極的に進めてください。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	演習形式	授業を通じての到達目標	テーマを絞り、背景、目的、意義、仮説の整合性があるか議論できる	教科書:「卒業研究発表技法」 藤雅茂　志田秀史　山口敦	教科書の関連する項目を読んでおく
		各コマにおける授業予定	今後の計画について講義する。各グループでテーマについて再検討を行う。		
第2回	演習形式	授業を通じての到達目標	グループで議論し、仮説を設定し研究計画書を立案することができる	教科書:「卒業研究発表技法」 藤雅茂　志田秀史　山口敦	教科書の関連する項目を読んでおく
		各コマにおける授業予定	各グループでテーマについて再検討を行い、研究計画書を作成する。		
第3回	演習形式	授業を通じての到達目標	グループで先行研究を整理し、管理することができる	教科書:「卒業研究発表技法」 藤雅茂　志田秀史　山口敦	教科書の関連する項目を読んでおく
		各コマにおける授業予定	研究計画書を作成する。		
第4回	演習形式	授業を通じての到達目標	量的研究か、質的研究か、文献を参考にしてデータ収集方法、データ数、標本抽出法を検討することができる	教科書:「卒業研究発表技法」 藤雅茂　志田秀史　山口敦	教科書の関連する項目を読んでおく
		各コマにおける授業予定	中間報告会に向け発表準備、研究計画書の作成を行う。		
第5回	演習形式	授業を通じての到達目標	研究計画書の内容を分かりやすく発表できる。	教科書:「卒業研究発表技法」 藤雅茂　志田秀史　山口敦	教科書の関連する項目を読んでおく
		各コマにおける授業予定	中間報告会を実施し、各グループが研究計画書について発表する。		

授業の方法		内　　容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標	中間報告会で得た意見について検討を行い研究に活かす。	教科書:「卒業研究発表技法」 藤雅茂　志田秀史　山口敦	教科書の関連する項目を読んでおく
		各コマにおける授業予定	中間報告会の振り返りを行う。		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	適切な調査方法を選択し、調査の準備をすることができる	教科書:「卒業研究発表技法」 藤雅茂　志田秀史　山口敦	教科書の関連する項目を読んでおく
		各コマにおける授業予定	研究計画書を作成。調査に向けた準備も行う。		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	調査対象者へ依頼し、調査を開始することができる	教科書:「卒業研究発表技法」 藤雅茂　志田秀史　山口敦	教科書の関連する項目を読んでおく
		各コマにおける授業予定	データをエクセルに入力するためのフォーマットを作成		
第9回	演習形式	授業を通じての到達目標	調査対象者の確認、データ回収後のデータを管理することができる	教科書:「卒業研究発表技法」 藤雅茂　志田秀史　山口敦	教科書の関連する項目を読んでおく
		各コマにおける授業予定	データを入力、カテゴリー化する		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	収集したデータを統計処理することができる	教科書:「卒業研究発表技法」 藤雅茂　志田秀史　山口敦	教科書の関連する項目を読んでおく
		各コマにおける授業予定	適切な統計方法で分析する		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	得られたデータから結果を導き出し、説明することができる	教科書:「卒業研究発表技法」 藤雅茂　志田秀史　山口敦	教科書の関連する項目を読んでおく
		各コマにおける授業予定	データから結果を導き出す		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	得られた結果から考察を深めることができる	教科書:「卒業研究発表技法」 藤雅茂　志田秀史　山口敦	教科書の関連する項目を読んでおく
		各コマにおける授業予定	得られた結果から先行文献と比較し考察を深める		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	設定した仮説に対する結果を説明することができる	教科書:「卒業研究発表技法」 藤雅茂　志田秀史　山口敦	教科書の関連する項目を読んでおく
		各コマにおける授業予定	仮説がどうであったか議論する		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	自身の研究内容を分かりやすく発表できる。	教科書:「卒業研究発表技法」 藤雅茂　志田秀史　山口敦	教科書の関連する項目を読んでおく
		各コマにおける授業予定	中間報告会を行い、各グループごとに研究の発表を行う。		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	中間報告会で得た意見を研究に落とし込むことができる。	教科書:「卒業研究発表技法」 藤雅茂　志田秀史　山口敦	教科書の関連する項目を読んでおく
		各コマにおける授業予定	中間報告会の振り返りを行う。		

2026　年度 授業計画(シラバス)

学科	介護福祉科		科目区分	基礎分野	授業の方法	講義
科目名	試験対策講座		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対象学年	2年生		学期及び曜時限	後期 水曜1・2限	教室名	502・601
担当教員	柴田敬子	実務経験とその関連資格	介護保険請求事務担当講師(ヒューマンアカデミー他)10年 介護事務管理士			

《授業科目における学習内容》

前期:介護保険の仕組み、算定の仕方、介護報酬レセプトの記載方法
後期:介護事務管理士技能認定試験の試験対策

《成績評価の方法と基準》

科目修了試験:70%　出席評価点:20%　平常評価点10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

ソラストテキスト
①介護保険のしくみとサービス ②介護報酬の算定のしかた ③資料ブック

《授業外における学習方法》

復習として、課題事例の演習や、資料作成、ファイリング、過去問題演習を行う。

《履修に当たっての留意点》

後期は介護事務管理士資格試験合格のための内容。テキスト、作成資料は持ち込み出来るので整理された資料作りを指導。

授業の方法			内容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護報酬の算定レセプトの記載(居宅サービスの算定)を理解できる①	テキスト1.2.3	授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	居宅サービスの介護給付明細書を作成		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護報酬の算定レセプトの記載(居宅サービスの算定)を理解できる②	テキスト1.2.3	授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	居宅サービスの介護給付明細書を作成		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護報酬の算定レセプトの記載(居宅サービスの算定)を理解できる③	テキスト1.2.3	授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	居宅サービスの介護給付明細書を作成		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護報酬の算定レセプトの記載(居宅サービスの算定)を理解できる④	テキスト1.2.3	授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	居宅サービスの介護給付明細書を作成		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護報酬の算定レセプトの記載(居宅サービスの算定)を理解できる⑤	テキスト1.2.3	授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	居宅サービスの介護給付明細書を作成		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護報酬の算定レセプトの記載(居宅サービスの算定)を理解できる⑥	テキスト1.2.3	授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	居宅サービスの介護給付明細書を作成		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護報酬の算定レセプトの記載(施設サービス)を理解できる①	テキスト1.2.3	授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	施設サービスの介護給付明細書を作成		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護報酬の算定レセプトの記載(施設サービス)を理解できる②	テキスト1.2.3	授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	施設サービスの介護給付明細書を作成		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	過去問題　学科・実技の解答手順を理解できる①	テキスト1.2.3	授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	過去問題の学科・実技実施		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	過去問題　学科・実技の解答手順を理解できる②	テキスト1.2.3	授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	過去問題の学科・実技実施		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	過去問題　学科・実技の解答手順を理解できる③	テキスト1.2.3	授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	過去問題の学科・実技実施		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	過去問題　学科・実技の解答手順を理解できる④	テキスト1.2.3	授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	過去問題の学科・実技実施		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	過去問題　学科・実技の解答手順を理解できる⑤	テキスト1.2.3	授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	過去問題の学科・実技実施		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	過去問題　学科・実技の解答手順を理解できる⑥	テキスト1.2.3	授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	過去問題の学科・実技実施		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	過去問題　学科・実技の解答手順を理解できる⑦	テキスト1.2.3	授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	過去問題の学科・実技実施		

2026　年度 授業計画(シラバス)　　大阪保健福祉専門学校

学科	介護福祉科	科目区分	基礎分野	授業の方法	講義
科目名	試験対策講座	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対象学年	2年生	学期及び曜時限	前期　水曜1・2限	教室名	502・601
担当教員	柴田敬子	実務経験とその関連資格	介護保険請求事務担当講師(ヒューマンアカデミー他)10年 介護事務管理士		

《授業科目における学習内容》

介護保険のしくみ、介護報酬のしくみ、介護報酬レセプト作成、介護事務管理士技能認定試験対策

《成績評価の方法と基準》

科目修了試験:70%　出席評価点:20%　平常評価点10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

ソラストテキスト
①介護保険のしくみとサービス ②介護報酬の算定のしかた ③資料ブック

《授業外における学習方法》

復習として、確認問題やレセプト作成演習を行う。

《履修に当たっての留意点》

介護保険請求事務でサービスに対価が有り、サービス提供者が理解する内容の学習を段階的に積み重ねるよう指導。介護事務管理士資格取得に向けての準備をする。

授業の方法			内容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護報酬の知識取得の目的を理解できる	テキスト1	授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	1回目はガイダンスで介護保険、学習の進め方、資格取得の説明		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護保険制度を理解できる	テキスト1	授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	保険給付、サービスの種類、サービス提供の流れ		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護保険給付の種類を理解できる	テキスト1.2	授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	居宅サービス、施設サービス、地域密着型サービス		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護保険サービス内容の理解ができる①	テキスト1.2.3	授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	居宅サービス、施設サービス、地域密着型サービス		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護保険サービス内容の理解ができる②	テキスト1.2.3	授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	居宅サービス、施設サービス、地域密着型サービス		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護保険サービス内容の理解ができる③	テキスト1.2.3	授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	居宅サービス、施設サービス、地域密着型サービス		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護報酬算定、居宅サービスが理解できる①	テキスト1.2.3	授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	居宅サービスの基本的な利用・単位の見分けと計算		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護報酬算定、居宅サービスが理解できる②	テキスト1.2.3	授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	居宅サービスの基本的な利用・単位の見分けと計算		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護報酬算定、居宅サービスが理解できる③	テキスト1.2.3	授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	居宅サービスの基本的な利用・単位の見分けと計算		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護報酬レセプト作成ができる①	テキスト1.2.3	授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	居宅サービスレセプト記載方法		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護報酬レセプト作成ができる②	テキスト1.2.3	授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	居宅サービスレセプト記載方法		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護報酬レセプト作成ができる③	テキスト1.2.3	授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	居宅サービスレセプト記載方法		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護報酬レセプト作成ができる④	テキスト1.2.3	授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	居宅サービスレセプト記載方法		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護報酬算定、施設サービスが理解できる①	テキスト1.2.3	授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	施設サービスレセプト記載方法		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護報酬算定、施設サービスが理解できる②	テキスト1.2.3	授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	施設サービスレセプト記載方法		

2026　年度 授業計画(シラバス)　　大阪保健福祉専門学校

学科	介護福祉科		科目区分	専門分野	授業の方法	演習
科目名	手話と点字(点字)		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対象学年	2年生		学期及び曜時限	前期　金曜2限	教室名	502
担当教員	木戸口　恭子	実務経験とその関連資格	中学校・高等学校国語科教諭免許　四天王寺大学短期大学部講師　人間科学大学講師　大阪総合福祉専門学校講師　大阪市点訳ボランティア養成講座講師　泉大津市点訳ボランティア養成講座講師　大阪市視覚障がい者のための国語教室講師			

《授業科目における学習内容》

視覚障がい者についての基礎知識を理解し、コミュニケーション手段として基本的な点字が理解出来るよう能力が身につく

《成績評価の方法と基準》

実技テスト70%　出席点20%　平常点(提出物)10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

初めての点訳

《授業外における学習方法》

授業中に配布するプリント、教科書で復習する

《履修に当たっての留意点》

1コマずつの積み重ねで理解の深めていくので根気よく学習してください

授業の方法			内容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	関連医学の基礎知識を身に付けることができる	教科書、配布資料	教科書の該当部分を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	「視覚」および「視覚障害」について 視覚障害を引き起こす眼疾患について講義		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	視覚障害に起因する介護上の諸問題が理解できるようになる	教科書、配布資料	教科書の該当部分を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	視覚障がい者への支援の方法を場面所に講義		
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	残存機能の特性と活用が理解できるようになる	教科書、演習用プリント	教科書の該当部分を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	残存機能の特性を講義。触覚を用いる点字へと導入する。 点字の特徴について講義		
第4回	演習形式	授業を通じての到達目標	コミュニケーションのひとつとしての点字を理解し、知識を深めることができる	教科書、演習用プリント	授業中の課題を仕上げ復習する
		各コマにおける授業予定	点字の清音の読み方演習		
第5回	演習形式	授業を通じての到達目標	点字の読みに習熟することができる	教科書、演習用プリント	授業中の課題を仕上げ復習する
		各コマにおける授業予定	点字の濁音、抑音の読み方演習		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標	道具の正しく使い点字を書くことができる	教科書、携帯用点字器	点字一覧表で表裏関係を理解しておく
		各コマにおける授業予定	点字の表裏を理解し、点字器を用いて単語を書く		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	点字の基本的な仮名遣いを理解することができる	教科書、携帯用点字器	授業中の演習にミスがあれば修正し、復習する
		各コマにおける授業予定	点字に特有の仮名遣いを理解した上で、点字で文章を書く		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	文節分かち書きの基本を理解することができる	教科書、携帯用点字器、演習プリント	授業中の演習にミスがあれば修正し、復習する
		各コマにおける授業予定	分かち書きの基本ルールに従って点字を書く		
第9回	演習形式	授業を通じての到達目標	間違えやすい分かち書きについて理解することができる	教科書、携帯用点字器	授業中の演習にミスがあれば修正し、復習する
		各コマにおける授業予定	自立語の中で間違えやすい形式名詞、補助動詞、こそあどに気をつけて点訳する		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	複合語の分かち書きを理解することができる	教科書、携帯用点字器	授業中の演習にミスがあれば修正し、復習する
		各コマにおける授業予定	複合語の中の切れ続きを学び、複合語を含む文章を点訳する		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	点字の数字(アルファベット)の書き方を理解することができる	教科書、携帯用点字器、演習プリント	授業中の演習にミスがあれば修正し、復習する
		各コマにおける授業予定	点字での数字の読み書き、数を含む語の書き方を学ぶ。アルファベットについての概要を知る		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	固有名詞の分かち書きを理解することができる	教科書、携帯用点字器	授業中の演習にミスがあれば修正し、復習する
		各コマにおける授業予定	人名、地名を正しく点訳する		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	点字の記号類の使い方を理解することができる	教科書、携帯用点字器	授業中の演習にミスがあれば修正し、復習する
		各コマにおける授業予定	基本的な記号類の使い方を学ぶ		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	書き方の実際について理解することができる	教科書、携帯用点字器	授業中の演習にミスがあれば修正し、復習する
		各コマにおける授業予定	見出しのついた文章の点訳の仕方を学ぶ		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	点字の手紙文の書き方を知り、実践ができる	教科書、携帯用点字器	授業を振りかえり、しっかりと復習しておく
		各コマにおける授業予定	点字用郵便について学ぶ。また全15回の振り返りを実施する		

2026　年度 授業計画(シラバス)

学科	介護福祉科		科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	人間関係とコミュニケーション		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(2)　時間(単位)
対象学年	2年生		学期及び曜時限	後期　火曜3限	教室名	502
担当教員	松原千加子	実務経験とその関連資格	社会福祉士として高齢者分野の居宅介護支援事業所に勤務。また、第三者委員、評議員を経験。社会福祉士、精神保健福祉士資格所持。現在、精神科クリニックにて勤務。			

《授業科目における学習内容》

人間の尊厳の保持や自立の考え方、対人援助関係形成の基礎となる人間関係とコミュニケーションを踏まえたうえで、介護福祉士としての倫理基盤を身につける。さらに介護実践現場でチームで働く際に必要となるチームマネジメントの考え方と取り組みを理解する視点を養う。

《成績評価の方法と基準》

定期試験70%、授業態度10%、出席20%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

参考図書　介護福祉士養成講座「人間の理解」中央法規、「老人・障害者の心理」ミネルヴァ

《授業外における学習方法》

テキストやレジュメに出てきた重要な語句、説明について各自で考え、工夫して覚えるようにする。
とくに、他の科目にも出てくる語句は重要なため、とくに意識して覚えるようにする。

《履修に当たっての留意点》

介護福祉士として、求められるチームケアのあり方や視点を学び、チームマネジメントの考え方と取り組みを理解する。

授業の方法			内容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護福祉士としての倫理基盤について理解を深め、自身の倫理観について考える。	配布レジメ・資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと ・授業開始時に行う復習問題を用いてさらに復習を行うこと
		各コマにおける授業予定	自分と他者の価値観の違いを理解する。対人援助職として、必要な自己覚知や自己開示について理解を深める。		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護福祉士としての倫理基盤について理解を深め、自身の倫理観について考える。	配布レジメ・資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと ・授業開始時に行う復習問題を用いてさらに復習を行うこと
		各コマにおける授業予定	個人としての倫理観と専門職としての倫理観の違いについて理解する。		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	対人援助関係を形成するためのコミュニケーションの基礎について理解する。	配布レジメ・資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと ・授業開始時に行う復習問題を用いてさらに復習を行うこと
		各コマにおける授業予定	対人援助の基本的原則(バイステックの7原則)に基づき、自立を支えるための介護福祉実践のあり方について理解する。		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	チームで働くにあたって必要となる組織におけるコミュニケーションについて理解する。	配布レジメ・資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと ・授業開始時に行う復習問題を用いてさらに復習を行うこと
		各コマにおける授業予定	組織におけるコミュニケーションの特徴、情報の流れ、求められるコミュニケーションのあり方について理解する。		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護実践におけるチームマネジメントの意義①について説明できるようになる。	配布レジメ・資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと ・授業開始時に行う復習問題を用いてさらに復習を行うこと
		各コマにおける授業予定	「介護サービスと他の仕事との違い」について考える。モノを扱う仕事と比べて気をつけなければならないことは何かを理解する。		

授業の方法		内　　容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護実践におけるチームマネジメントの意義②について説明できるようになる。	配布レジメ・資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと ・授業開始時に行う復習問題を用いてさらに復習を行うこと
		各コマにおける授業予定	「ケアを展開する様々なチーム」について考える。同職種・多職種でチームをつくる意味について理解する。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護実践におけるチームマネジメントの意義③について説明できるようになる。	配布レジメ・資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと ・授業開始時に行う復習問題を用いてさらに復習を行うこと
		各コマにおける授業予定	「ケアを展開する様々なチーム」について考える。同職種・多職種でチームをつくる意味について理解する。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	ケアを展開するためのチームマネジメント①について説明できるようになる。	配布レジメ・資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと ・授業開始時に行う復習問題を用いてさらに復習を行うこと
		各コマにおける授業予定	情報共有の場について考える。ケアに関する情報共有の場としてどのようなものがあったか、整理してみる。		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	ケアを展開するためのチームマネジメント②について説明できるようになる。	配布レジメ・資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと ・授業開始時に行う復習問題を用いてさらに復習を行うこと
		各コマにおける授業予定	リーダーシップ・フォロワーシップについて考える。実践現場におけるリーダ的役割とフォロワー的役割の違いについて理解する。		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	ケアを展開するためのチームマネジメント③について説明できるようになる。	配布レジメ・資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと ・授業開始時に行う復習問題を用いてさらに復習を行うこと
		各コマにおける授業予定	事例に基づき、チームケアを展開していく視点について理解する。		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメントについて説明できるようになる。	配布レジメ・資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと ・授業開始時に行う復習問題を用いてさらに復習を行うこと
		各コマにおける授業予定	介護福祉士としてのキャリアをイメージする		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメントについて説明できるようになる。	配布レジメ・資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと ・授業開始時に行う復習問題を用いてさらに復習を行うこと
		各コマにおける授業予定	スーパービジョンの機能について理解する。		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	組織の目標達成のためのチームマネジメントについて説明できるようになる。	配布レジメ・資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと ・授業開始時に行う復習問題を用いてさらに復習を行うこと
		各コマにおける授業予定	介護サービスを支える組織の機能と役割についt理解する。		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	組織の目標達成のためのチームマネジメントについて説明できるようになる。	配布レジメ・資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと ・授業開始時に行う復習問題を用いてさらに復習を行うこと
		各コマにおける授業予定	介護サービスを提供している施設・事業所で、掲げられている組織の理念について考える。		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	後期各テーマについて振り返り、当該科目への理解を深める。	配布レジメ・資料	今までの確認テストを復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	介護実践におけるチームマネジメントの意義について理解を深める。		

2026　年度　授業計画(シラバス)　　大阪保健福祉専門学校

学　科	介護福祉科	科目区分	基礎分野	授業の方法	講義
科目名	健康科学講座	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(2)　時間(単位)
対象学年	2年生	学期及び曜時限	前期　水曜1・2限	教室名	502/601
担当教員	加藤　明英	実務経験とその関連資格	■実務経験 株式会社ティップネスでパーソナルトレーナー活動9年、大学での非常勤講師3年 ■資格 (公財)日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー、健康運動指導士		

《授業科目における学習内容》

スポーツで起こりやすいケガや病気の発生メカニズムを理解し、安全に運動を行う方法と身体能力向上のためのトレーニングを習得する。

《成績評価の方法と基準》

試験:70%　出席率:20%　平常評価点:10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

スチューデントトレーナー初級テキスト

《授業外における学習方法》

授業で配布した資料を用いて復習を行う。

《履修に当たっての留意点》

日本は超高齢社会に突入し、従来の医療制度、老人保険制度では対応しきれない問題が生じています。
その問題の解決方法の一つとして健康寿命の延伸があります。
健康寿命の延伸に繋がる安全かつ効果的な運動方法を学び、日々、実践することが日本の課題の解決策の一つであることを理解しましょう。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	ヒトがどのようなメカニズムで体を動かしているか説明ができる。	・教科書 ・配布資料	・配布資料を用いて復習する。
		各コマにおける授業予定	スポーツ生理学についての講義 骨と筋肉、神経の役割について理解する。		
第2回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	食事の重要性を説明できる。	・教科書 ・配布資料	・配布資料を用いて復習する。
		各コマにおける授業予定	スポーツ栄養学についての講義 五大栄養素と食事の重要性について理解する。 水分補給と熱中症予防の関係性を理解する。		
第3回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	体力を構成する要素を全て説明できる。	・教科書 ・配布資料	・配布資料を用いて復習する。
		各コマにおける授業予定	トレーニングについての講義1 体力の種類と体力を構成する要素を理解する。		
第4回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	トレーニングの種類と特徴を全て説明できる。	・教科書 ・配布資料	・配布資料を用いて復習する。
		各コマにおける授業予定	トレーニングについての講義2 体力要素毎のトレーニング方法について理解する。		
第5回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	ストレッチングの目的と効果を説明できる。	・教科書 ・配布資料	・配布資料を用いて復習する。
		各コマにおける授業予定	ストレッチングについての講義 ストレッチングの目的と効果について理解する。 ストレッチングの種類と特徴を理解する。		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	テーピングとサポーター、それぞれの長所と短所を説明できる。	・教科書 ・配布資料	・配布資料を用いて復習する。
		各コマにおける授業予定	テーピングについての講義 テーピングの目的と効果について理解する。		
第7回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	熱中症への対処方法を説明できる。 スポーツ性貧血の特徴と予防方法を説明できる。	・教科書 ・配布資料	・配布資料を用いて復習する。
		各コマにおける授業予定	スポーツ医学(内科)についての講義 熱中症の種類と対処法について理解する。 スポーツ性貧血について理解する。		
第8回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	外傷の定義と外傷毎の対処方法を説明できる。	・教科書 ・配布資料	・配布資料を用いて復習する。
		各コマにおける授業予定	スポーツ医学(外科)についての講義 外傷の定義と種類、応急処置について理解する。		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	障害の定義と外傷毎の対処方法を説明できる。	・教科書 ・配布資料	・配布資料を用いて復習する。
		各コマにおける授業予定	スポーツ医学(外科)についての講義 障害の定義と種類、対処方法について理解する。		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	模擬試験を通して理解度を把握する。	・教科書 ・配布資料	・配布資料を用いて復習する。
		各コマにおける授業予定	模擬試験。		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	資格試験合格。	・資格試験	・これまでの資料を用いて復習する。
		各コマにおける授業予定	資格試験(スチューデントトレーナー初級)。		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	正確な姿勢評価のための指標を理解し、自分や他者の姿勢を客観的に観察できる。	・配布資料	・配布資料を用いて復習する。
		各コマにおける授業予定	身体を横および後ろから見た際の「良い姿勢」の指標(ランドマーク)を確認し、骨格の並び(アライメント)を評価する方法を学ぶ。		
第13回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	姿勢の鍵となる肩甲骨と骨盤の解剖学的な動きの名称と、その重要性を説明できる。	・配布資料	・配布資料を用いて復習する。
		各コマにおける授業予定	肩甲骨(内転・外転)や骨盤(前傾・後傾)の基本動作を習得し、ニュートラルポジションとの違いや姿勢への影響を把握する。		
第14回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	骨・関節・筋肉がどのように相互作用して、滑らかな身体の動きを生み出すかを解説できる。	・配布資料	・配布資料を用いて復習する。
		各コマにおける授業予定	身体の支持・可動・駆動を担う各組織(骨・関節・筋肉)の役割を整理し、脳の指令から身体が動くまでのプロセスを体系的に理解する。		
第15回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	起始・停止・作用・拮抗筋の用語を正しく使い、特定の動きにおける筋肉の働きを分析できる。	・配布資料	・配布資料を用いて復習する。
		各コマにおける授業予定	筋肉の付着部(起始・停止)や働き(作用)の定義を学び、主動作筋と拮抗筋の相互作用による運動メカニズムを習得する。		

2026　年度　授業計画(シラバス)　　大阪保健福祉専門学校

学　科	介護福祉科	科目区分	専門分野	授業の方法	演習
科目名	医療的ケア(演習)	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(1)　時間(単位)
対象学年	2年生	学期及び曜時限	後期　火曜1・2限目	教室名	4階実習室
担当教員	秋成由紀子・酒井順子	実務経験とその関連資格	看護師免許・医療的ケア教員講習会修了		

《授業科目における学習内容》

喀痰吸引・経管栄養の提供を安全に行うための技術を修得する。

《成績評価の方法と基準》

省令に定められている行為(5行為)をそれぞれ5回以上実施した上で評価票に示す手順がすべて(ア)となれば合格。　成績評価基準:受講態度と出席日数30%演習合格70%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

最新　介護福祉士養成講座15　医療的ケア　中央法規

《授業外における学習方法》

評価項目の視点を理解して手順をイメージトレーニングしておくこと。

《履修に当たっての留意点》

介護現場で働く上で感染予防対策を身につけることは必須である。適切な手洗い・手指消毒・手袋の外し方を演習の中で習得する。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	演習形式	授業を通じての到達目標	喀痰吸引の留意点を説明できる。清潔・不潔を意識できる。	医療的ケア 中央法規 別紙:評価項目 評価票	教科書を読み呼吸器器官の復習を行っておく。
		各コマにおける授業予定	物品の説明と手順の説明 デモストレーション後、、1人づつ実施		
第2回	演習形式	授業を通じての到達目標	口腔内吸引の留意点が説明できる。清潔操作ができる。	医療的ケア 中央法規 別紙:評価項目 評価票	評価の視点を理解して手順のイメージトレーニングを行っておく。
		各コマにおける授業予定	2回目から4回以上実施		
第3回	演習形式	授業を通じての到達目標	口腔内吸引が手順通り実施できる。	医療的ケア 中央法規 別紙:評価項目 評価票	評価の視点を理解して手順のイメージトレーニングを行っておく。
		各コマにおける授業予定	口腔内吸引1人づつ評価		
第4回	演習形式	授業を通じての到達目標	鼻腔内の喀痰吸引の留意点が説明できる。清潔操作ができる。	医療的ケア 中央法規 別紙:評価項目 評価票	評価の視点を理解して手順のイメージトレーニングを行っておく。
		各コマにおける授業予定	鼻腔内の喀痰吸引のデモ後、1人づづ4回以上実施		
第5回	演習形式	授業を通じての到達目標	清潔操作を理解して鼻腔内吸引が手順どおり実施できる。	医療的ケア 中央法規 別紙:評価項目 評価票	評価の視点を理解して手順のイメージトレーニングを行っておく。
		各コマにおける授業予定	鼻腔内吸引1人づづ評価		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標	気管カニューレ内部吸引の留意点・評価の視点が説明できる。	医療的ケア 中央法規 別紙：評価項目評価票	評価の視点を理解して手順のイメージトレーニングを行っておく。
		各コマにおける授業予定	デモ後、1人づづ4回以上実施		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	清潔操作（無菌操作）を理解して気管カニューレ内部の吸引が手順どおりに実施できる。	医療的ケア 中央法規 別紙：評価項目評価票	評価の視点を理解して手順のイメージトレーニングを行っておく。
		各コマにおける授業予定	気管カニューレ内部の吸引　1人づつ評価		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	経管栄養の留意点・生じる危険について説明できる。	医療的ケア 中央法規 別紙：評価項目評価票	教科書を読み消化器官の復習を行っておく。
		各コマにおける授業予定	経管栄養の物品・手順について説明・胃ろう経管栄養のデモストレーション		
第9回	演習形式	授業を通じての到達目標	評価項目の視点が理解でき手順どおりに実施できる。	医療的ケア 中央法規 別紙：評価項目評価票	評価の視点を理解して手順のイメージトレーニングを行っておく。
		各コマにおける授業予定	1人づづ1回～3回以上実施		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	評価項目の視点が理解でき手順どおりに実施できる。	医療的ケア 中央法規 別紙：評価項目評価票	評価の視点を理解して手順のイメージトレーニングを行っておく。
		各コマにおける授業予定	4回目以上実施		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	胃ろう経管栄養が手順どおりに実施できる。	医療的ケア 中央法規 別紙：評価項目評価票	評価の視点を理解して手順のイメージトレーニングを行っておく。
		各コマにおける授業予定	胃ろう経管栄養　1人づつ評価		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	経鼻経管栄養の留意点・生じる危険が説明できる。	医療的ケア 中央法規 別紙：評価項目評価票	評価の視点を理解して手順のイメージトレーニングを行っておく。
		各コマにおける授業予定	経鼻経管栄養のデモストレーション		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	経鼻経管栄養の評価の視点を理解できる。	医療的ケア 中央法規 別紙：評価項目評価票	評価の視点を理解して手順のイメージトレーニングを行っておく。
		各コマにおける授業予定	1人づづ1回～2回以上実施		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	経鼻経管栄養の評価の視点を理解し手順どおりに実施できる。	医療的ケア 中央法規 別紙：評価項目評価票	評価の視点を理解して手順のイメージトレーニングを行っておく。
		各コマにおける授業予定	3回～4回目以上実施		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	経鼻経管栄養が手順どおりに実施できる。	医療的ケア 中央法規 別紙：評価項目評価票	評価の視点を理解して手順のイメージトレーニングを行っておく。
		各コマにおける授業予定	経鼻経管栄養　1人づづ評価		

2026　年度　授業計画(シラバス)　　大阪保健福祉専門学校

学　科	介護福祉科	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	医療的ケア　Ⅱ	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(2)　時間(単位)
対象学年	2年生	学期及び曜時限	前期　月曜2限目	教室名	502
担当教員	酒井順子	実務経験とその関連資格	看護師免許・医療的ケア教員講習会修了		

《授業科目における学習内容》

医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるという観点から、医療職と連携のもとで医療的ケア(喀痰吸引と経管栄養)を安全・適切に実施できるよう必要な知識を習得する。

《成績評価の方法と基準》

期末筆記試験70点＋受講態度(プリント記入含む)10点＋出席率20点

《使用教材(教科書)及び参考図書》

最新・介護福祉士養成講座　15　医療的ケア第2版　中央法規

《授業外における学習方法》

毎回、確認プリントで復習をしておくこと。

《履修に当たっての留意点》

授業中の問いかけに対し適切なコミュニケーションをとること。

			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	痰の性状と呼吸の変化が説明できる。	テキスト 配布プリント　確認テスト　パソコン　プロジェクター	確認テストプリントで　復習
		各コマにおける授業予定	痰の性状と変化・正常な呼吸状態 ・いつもと違う呼吸　・ 呼吸困難がもたらす苦痛		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	痰を生じて排出するしくみを理解できる。	テキスト 配布プリント　確認テスト　パソコン　プロジェクター	確認テストプリントで　復習
		各コマにおける授業予定	・痰を生じて排出するしくみ　・ 線毛運動・痰の貯留を示す状態　・ 貯留している痰を出しやすくするケア		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	喀痰吸引が必要な状態を理解できる。	テキスト 配布プリント　確認テスト　パソコン　プロジェクター	確認テストプリントで　復習
		各コマにおける授業予定	・痰が増加している状態とは　・ 痰が排出しにくい状態とは　・痰 がかたくなる要因		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	安全で確実な吸引を実施するための厳守項目が説明できる。	テキスト 配布プリント　確認テスト　パソコン　プロジェクター	確認テストプリントで　復習
		各コマにおける授業予定	・吸引チューブ挿入の深さ　・吸引圧　・吸引時間 ・吸引チューブのサイズ・清潔保持		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	人工呼吸器のしくみと気管カニューレ内部の吸引の留意点が理解できる。	テキスト 配布プリント　確認テスト　パソコン　プロジェクター	確認テストプリントで　復習
		各コマにおける授業予定	・人工呼吸器の必要な状態・人工呼吸器のしくみ　・ 吸引時の留意点・人工呼吸器装着者の生活上の留意点　・子 どもの吸引の注意点		

授業の方法			・	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	喀痰吸引により生じる危険が説明できる。	テキスト 配布プリント 確認テスト パソコン プロジェクター	確認テストプリントで 復習
		各コマにおける授業予定	急変・事故発生時の対応と事前対策・ヒヤリハット・アクシデントの報告		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	吸引前、中、後の状態観察の注意事項・吸引の手順と留意点が説明できる。	テキスト 配布プリント 確認テスト パソコン プロジェクター	確認テストプリントで 復習
		各コマにおける授業予定	・吸引前、中、後の観察項目・手順と留意点 ・喀痰吸引にともなうケア		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	消化器系のしくみと名称が説明できる。	テキスト 配布プリント 確認テスト パソコン プロジェクター	確認テストプリントで 復習
		各コマにおける授業予定	・消化器系器官各部の構造と機能 ・嚥下のしくみ		
第9回	実習形式	授業を通じての到達目標	消化・吸収とよくある消化器症状が説明できる。	テキスト 配布プリント 確認テスト パソコン プロジェクター	確認テストプリントで 復習
		各コマにおける授業予定	経管栄養実施時に起こりやすい消化器症状とその要因		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	経管栄養とはが説明できる。	テキスト 配布プリント 確認テスト パソコン プロジェクター	確認テストプリントで 復習
		各コマにおける授業予定	・経管栄養が必要な状態とは		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	経管栄養のしくみと種類が説明できる。	テキスト 配布プリント 確認テスト パソコン プロジェクター	確認テストプリントで 復習
		各コマにおける授業予定	・胃ろう・腸ろう・経鼻経管栄養のメリットデメリット		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	注入する内容に関する知識が理解できる。	テキスト 配布プリント 確認テスト パソコン プロジェクター	確認テストプリントで 復習
		各コマにおける授業予定	・栄養剤の種類・液体栄養剤・半固形栄養剤		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	経管栄養実施上の留意点が理解できる。	テキスト 配布プリント 確認テスト パソコン プロジェクター	確認テストプリントで 復習
		各コマにおける授業予定	経管栄養で起こりうる身体の異変・スキントラブル ・子どもの経管栄養・利用者や家族の気持ちと対応		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	経管栄養により生じる危険	テキスト 配布プリント 確認テスト パソコン プロジェクター	確認テストプリントで 復習
		各コマにおける授業予定	・経管栄養時に想定されるリスクと対応 ・ヒヤリハット・アクシデントの報告		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	経管栄養実施上の観察点・手順と留意点が説明できる。	テキスト 配布プリント 確認テスト パソコン プロジェクター	確認テストプリントで 復習
		各コマにおける授業予定	実施中、実施後の観察点 経管栄養時に必要なケア・体位・チューブ挿入部の皮膚のケア		

2026　年度 授業計画(シラバス)　　大阪保健福祉専門学校

学科	介護福祉科	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	介護総合演習	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対象学年	2年生	学期及び曜時限	後期　金曜1限	教室名	502
担当教員	清水　公二/尾崎　朱理	実務経験とその関連資格	(清水)介護福祉士。特別養護老人ホームにて約10年勤務 (尾崎)介護福祉士。介護老人保健施設にて5年勤務		

《授業科目における学習内容》

実習の教育効果をあげるために、実習前、実習中の取り組み、実習後のまとめなど計画的に進めることができる。
実習後の事例報告会ケーススタディ報告会にて自身の学んだ成果を発表することができる。
実習に必要な知識・技術、介護過程の展開の能力などを総合的に身につけることができる。

《成績評価の方法と基準》

出席評価点:20%、平常評価点10%、提出課題・レポート70%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

滋慶教育科学研究所監修 「実習と記録」/中央法規　最新介護福祉士養成講座 「介護総合演習・介護実習」

《授業外における学習方法》

介護福祉実習Ⅱ－②の報告会　準備、報告を行う。実習Ⅱ-②での学びをケーススタディでまとめ、今後の介護福祉士とし業界で働く為の成長課題を見つける。時間外も自分の実習からの振り返りとして、自己学習を行う。実習後のケーススタディについて(学びたい事柄を明らかにし、事前学習をすすめる)。

《履修に当たっての留意点》

介護福祉実習Ⅱ－②報告会終了後は、ケーススタディ作成し、自分自身の今後の課題を見出す

授業の方法			内容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習での成果がまとめられ、報告する内容が準備できている。	滋慶教育科学研究所監修 「実習と記録」/中央法規 最新介護福祉士養成講座 「介護総合演習・介護実習」	実習報告会の下調べ・レポートの作成準備をしてから授業に臨む。パソコンを使用し報告書をまとめていく。
		各コマにおける授業予定	実習報告会準備		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習での成果がまとめられ、報告する内容が準備できている。	滋慶教育科学研究所監修 「実習と記録」/中央法規 最新介護福祉士養成講座 「介護総合演習・介護実習」	実習報告会の下調べ・レポートの作成準備をしてから授業に臨む。パソコンを使用し報告書をまとめていく。
		各コマにおける授業予定	実習報告会準備		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習報告会にて、自身の学びを発表することができる。	滋慶教育科学研究所監修 「実習と記録」/中央法規 最新介護福祉士養成講座 「介護総合演習・介護実習」	実習報告会の下調べ・レポートの作成準備をしてから授業に臨む。パソコンを使用し報告書をまとめていく。
		各コマにおける授業予定	実習報告会		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	前回実習からの改善点が明らかになり、達成可能な目標設定ができる。	滋慶教育科学研究所監修 「実習と記録」/中央法規 最新介護福祉士養成講座 「介護総合演習・介護実習」	実習報告会の下調べ・レポートの作成準備をしてから授業に臨む。パソコンを使用し報告書をまとめていく。
		各コマにおける授業予定	実習Ⅱ－②の評価の振り返りから今後の課題を見出す		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習Ⅱ-②のケーススタディーをまとめることができる。	滋慶教育科学研究所監修 「実習と記録」/中央法規 最新介護福祉士養成講座 「介護総合演習・介護実習」	配布資料を熟読しケーススタディーの下調べ・レポートの作成準備をし授業に臨む。パソコン使用しケーススタディーをまとめていく
		各コマにおける授業予定	ケーススタディーの作成		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習Ⅱ-②のケーススタディーをまとめることができる。	滋慶教育科学研究所監修「実習と記録」／中央法規 最新介護福祉士養成講座「介護総合演習・介護実習」	配布資料を熟読しケーススタディーの下調べ・レポートの作成準備をし授業に臨む。パソコン使用しケーススタディーをまとめていく
		各コマにおける授業予定	ケーススタディーの作成		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習Ⅱ-②のケーススタディーをまとめることができる。	滋慶教育科学研究所監修「実習と記録」／中央法規 最新介護福祉士養成講座「介護総合演習・介護実習」	配布資料を熟読しケーススタディーの下調べ・レポートの作成準備をし授業に臨む。パソコン使用しケーススタディーをまとめていく
		各コマにおける授業予定	ケーススタディーの作成		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習Ⅱ-②のケーススタディーをまとめることができる。	滋慶教育科学研究所監修「実習と記録」／中央法規 最新介護福祉士養成講座「介護総合演習・介護実習」	配布資料を熟読しケーススタディーの下調べ・レポートの作成準備をし授業に臨む。パソコン使用しケーススタディーをまとめていく
		各コマにおける授業予定	ケーススタディーの作成		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習Ⅱ-②のケーススタディーをまとめることができる。	滋慶教育科学研究所監修「実習と記録」／中央法規 最新介護福祉士養成講座「介護総合演習・介護実習」	配布資料を熟読しケーススタディーの下調べ・レポートの作成準備をし授業に臨む。パソコン使用しケーススタディーをまとめていく
		各コマにおける授業予定	ケーススタディーの作成		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習Ⅱ-②のケーススタディーをまとめることができる。	滋慶教育科学研究所監修「実習と記録」／中央法規 最新介護福祉士養成講座「介護総合演習・介護実習」	配布資料を熟読しケーススタディーの下調べ・レポートの作成準備をし授業に臨む。パソコン使用しケーススタディーをまとめていく
		各コマにおける授業予定	ケーススタディーの作成		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習Ⅱ-②のケーススタディーをまとめることができる。	滋慶教育科学研究所監修「実習と記録」／中央法規 最新介護福祉士養成講座「介護総合演習・介護実習」	配布資料を熟読しケーススタディーの下調べ・レポートの作成準備をし授業に臨む。パソコン使用しケーススタディーをまとめていく
		各コマにおける授業予定	ケーススタディーの作成		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習Ⅱ-②のケーススタディーをまとめることができる。	滋慶教育科学研究所監修「実習と記録」／中央法規 最新介護福祉士養成講座「介護総合演習・介護実習」	配布資料を熟読しケーススタディーの下調べ・レポートの作成準備をし授業に臨む。パソコン使用しケーススタディーをまとめていく
		各コマにおける授業予定	ケーススタディーの作成		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習Ⅱ-②のケーススタディーをまとめることができる。	滋慶教育科学研究所監修「実習と記録」／中央法規 最新介護福祉士養成講座「介護総合演習・介護実習」	配布資料を熟読しケーススタディーの下調べ・レポートの作成準備をし授業に臨む。パソコン使用しケーススタディーをまとめていく
		各コマにおける授業予定	ケーススタディーの作成		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習Ⅱ-②のケーススタディーをまとめることができる。	滋慶教育科学研究所監修「実習と記録」／中央法規 最新介護福祉士養成講座「介護総合演習・介護実習」	配布資料を熟読しケーススタディーの下調べ・レポートの作成準備をし授業に臨む。パソコン使用しケーススタディーをまとめていく
		各コマにおける授業予定	ケーススタディーの作成		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習Ⅱ-②ケーススタディーの内容より自分の傾向を知り、今後の課題を見出す事が出来る	滋慶教育科学研究所監修「実習と記録」／中央法規 最新介護福祉士養成講座「介護総合演習・介護実習」	配布資料を熟読しケーススタディーの下調べ・レポートの作成準備をし授業に臨む。パソコン使用しケーススタディーをまとめていく
		各コマにおける授業予定	ケーススタディの発表		

2026　年度 授業計画(シラバス)　　大阪保健福祉専門学校

学　科	介護福祉科	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	介護総合演習	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(2)　時間(単位)
対象学年	2年生	学期及び曜時限	前期　水曜3限	教室名	502
担当教員	清水　公二/尾崎　朱理	実務経験とその関連資格	(清水)介護福祉士。特別養護老人ホームにて約10年勤務 (尾崎)介護福祉士。介護老人保健施設にて5年勤務		

《授業科目における学習内容》

実習の教育効果をあげるために、実習前、実習中の取り組み、実習後のまとめなど計画的に進めることができる。
実習後の事例報告会にて自身の学んだ成果を発表することができる。
実習に必要な知識・技術、介護過程の展開の能力などを総合的に身につけることができる。

《成績評価の方法と基準》

出席評価点:20%、平常評価点10%、提出課題・レポート70%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

滋慶教育科学研究所監修 「実習と記録」／中央法規　最新介護福祉士養成講座 「介護総合演習・介護実習」

《授業外における学習方法》

介護福祉実習Ⅱ－①の報告会　準備、報告を行う。振り返りを行うことで、次回への課題を見つける。時間外も自分の実習からの振り返りとして、自己学習を行う。実習後のケーススタディについて　(学びたい事柄を明らかにし、事前学習をすすめる)。

《履修に当たっての留意点》

報告会終了後は、介護福祉実習Ⅱ－②に向けての準備　実習日誌(目標の立て方、考察ができる)、事前学習を行っていく。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習Ⅱ-①を振り返り、各自の課題を確認することができる。	滋慶教育科学研究所監修 「実習と記録」／中央法規　最新介護福祉士養成講座 「介護総合演習・介護実習」	実習Ⅱ-①　実習ファイル
		各コマにおける授業予定	科目オリエンテーション 実習Ⅱ-①の振り返りと今後のスケジュールについて		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習での成果をまとめ、報告する内容が準備できる。	滋慶教育科学研究所監修 「実習と記録」／中央法規　最新介護福祉士養成講座 「介護総合演習・介護実習」	実習報告会の下調べ・レポートの作成準備をしてから授業に臨む。パソコンを使用し報告書をまとめていく。
		各コマにおける授業予定	実習報告会へ向けた準備		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	チームで目標に向けての企画力、チームワークを培うことができる。	別途資料	実施に向けての必要物品の準備やスムーズな運営を行うための当日のスケジュール管理
		各コマにおける授業予定	新入生歓迎会準備		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	チームで目標に向けての企画力、チームワークを培うことができる。	別途資料	実施に向けての必要物品の準備やスムーズな運営を行うための当日のスケジュール管理
		各コマにおける授業予定	新入生歓迎会		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習での成果がまとめられ、報告する内容が準備できる。	滋慶教育科学研究所監修 「実習と記録」／中央法規　最新介護福祉士養成講座 「介護総合演習・介護実習」	実習報告会の下調べ・レポートの作成準備をしてから授業に臨む。パソコンを使用し報告書をまとめていく。
		各コマにおける授業予定	実習報告会準備		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習での成果がまとめられ、報告する内容が準備できる。	滋慶教育科学研究所監修「実習と記録」／中央法規 最新介護福祉士養成講座「介護総合演習・介護実習」	実習報告会の下調べ・レポートの作成準備をしてから授業に臨む。パソコンを使用し報告書をまとめていく。
		各コマにおける授業予定	実習報告会		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習Ⅱ-②に向けての書類が作成できる。	滋慶教育科学研究所監修「実習と記録」／中央法規 最新介護福祉士養成講座「介護総合演習・介護実習」	前回実習のファイルを見直す、振り返ること。授業内で作成できない時には、宿題とする。
		各コマにおける授業予定	実習書類作成		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習Ⅱ-②に向けての書類が作成できる。	滋慶教育科学研究所監修「実習と記録」／中央法規 最新介護福祉士養成講座「介護総合演習・介護実習」	前回実習のファイルを見直す、振り返ること。授業内で作成できない時には、宿題とする。
		各コマにおける授業予定	実習書類作成		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習Ⅱ-②に向けての書類が作成できている。	滋慶教育科学研究所監修「実習と記録」／中央法規 最新介護福祉士養成講座「介護総合演習・介護実習」	前回実習のファイルを見直す、振り返ること。授業内で作成できない時には、宿題とする。
		各コマにおける授業予定	実習書類作成		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護計画、情報収集について復習し、対象者理解の重要性がわかる。	滋慶教育科学研究所監修「実習と記録」／中央法規 最新介護福祉士養成講座「介護総合演習・介護実習」	前回実習のファイルを見直す、振り返ること。授業内で作成できない時には、宿題とする。
		各コマにおける授業予定	介護計画、情報収集について		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	情報収集から生活課題を導きだし、対象者理解が深まっている。	滋慶教育科学研究所監修「実習と記録」／中央法規 最新介護福祉士養成講座「介護総合演習・介護実習」	前回実習のファイルを見直す、振り返ること。授業内で作成できない時には、宿題とする。
		各コマにおける授業予定	介護計画、情報収集、生活課題について		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	情報収集から、計画立案し実施、評価の一連の流れが理解できている。	滋慶教育科学研究所監修「実習と記録」／中央法規 最新介護福祉士養成講座「介護総合演習・介護実習」	前回実習のファイルを見直す、振り返ること。授業内で作成できない時には、宿題とする。
		各コマにおける授業予定	介護計画の立案、実施評価方法について		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	苦手な分野、解けない問題が、その内容を理解し解けるようになっている。	滋慶教育科学研究所監修「実習と記録」／中央法規 最新介護福祉士養成講座「介護総合演習・介護実習」	前回実習のファイルを見直す、振り返ること。授業内で作成できない時には、宿題とする。
		各コマにおける授業予定	自身の苦手や不正解となっている問題に取り組み、解答解説等を通じて、問題の傾向を理解、正解をすることができる。		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習にまつわる事前準備や、実習中の必須事項が理解できている。	滋慶教育科学研究所監修「実習と記録」／中央法規 最新介護福祉士養成講座「介護総合演習・介護実習」	前回実習のファイルを見直す、振り返ること。授業内で作成できない時には、宿題とする。
		各コマにおける授業予定	電話連絡方法、事前訪問、カンファレンスについて		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習Ⅱ-②の内容の全体像を理解し、準備をして臨むことができている。	滋慶教育科学研究所監修「実習と記録」／中央法規 最新介護福祉士養成講座「介護総合演習・介護実習」	実習に向け、自身の事前課題を中心に取り組むこと。
		各コマにおける授業予定	実習直前指導		

2026　年度 授業計画(シラバス)　　大阪保健福祉専門学校

学科	介護福祉科	科目区分	基礎分野	授業の方法	演習
科目名	国際福祉論	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対象学年	2年生	学期及び曜時限	後期　月曜	教室名	502
担当教員	清水　公二	実務経験とその関連資格	介護福祉士 特別養護老人ホームにて約10年勤務		

《授業科目における学習内容》

海外の福祉と文化を学び実際に見学体験をする

《成績評価の方法と基準》

海外研修に参加しレポートの提出

《使用教材(教科書)及び参考図書》

配布プリント

《授業外における学習方法》

インターネット等でアメリカの福祉について予習を行う

《履修に当たっての留意点》

積極的に英会話に取り組む

授業の方法			内容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	研修日程の確認し、その内容を理解できる①	配布プリント	配布プリントを事前に確認
		各コマにおける授業予定	研修のスケジュールや内容、また現地の状況について、海外事業部担当者、名鉄観光担当者からレクチャーする		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	研修日程の確認し、その内容を理解できる②	配布プリント	配布プリントを事前に確認
		各コマにおける授業予定	研修中の服装やマナー、準備物、出発当日の集合注意事項等具体的な事柄について、海外事業部担当者、名鉄観光担当者からレクチャーする		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	研修旅行全般の注意事項について理解できるようになる①	配布プリント	配布プリントを事前に確認
		各コマにおける授業予定	海外における安全面での諸注意について海外事業部担当者、名鉄観光担当者からレクチャーする。また海外旅行保険、レンタルスーツケースの案内を行う		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	研修旅行全般の注意事項について理解できるようになる②	配布プリント	配布プリントを事前に確認
		各コマにおける授業予定	米国ドルの用意の仕方や注意事項、出入国の際の英会話、出入国カードの質問事項の確認など、海外事業部担当者、名鉄観光担当者からレクチャー、必要事項の確認を行う		
第5回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	海外研修を通し現地を知ることができる	海外研修のしおり	配布プリントを事前に確認
		各コマにおける授業予定	アメリカ、シアトルにて研修　(オリエンテーション)		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	海外研修を通し現地を知ることができる	海外研修のしおり	配布プリントを事前に確認
		各コマにおける授業予定	アメリカ、シアトルにて研修（事例検討、講義）		
第7回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	海外研修を通し現地を知ることができる	海外研修のしおり	配布プリントを事前に確認
		各コマにおける授業予定	アメリカ、シアトルにて研修（事例検討、講義）		
第8回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	海外研修を通し現地を知ることができる	海外研修のしおり	配布プリントを事前に確認
		各コマにおける授業予定	アメリカ、シアトルにて研修（事例検討、講義）		
第9回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	海外研修を通し現地を知ることができる	海外研修のしおり	配布プリントを事前に確認
		各コマにおける授業予定	アメリカ、シアトルにて研修（学生研究発表）		
第10回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	海外研修を通し現地を知ることができる	海外研修のしおり	配布プリントを事前に確認
		各コマにおける授業予定	アメリカ、シアトルにて研修（学生研究発表、学生交流）		
第11回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	海外研修を通し現地を知ることができる	海外研修のしおり	配布プリントを事前に確認
		各コマにおける授業予定	アメリカ、シアトルにて研修（高齢者施設見学）		
第12回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	海外研修を通し現地を知ることができる	海外研修のしおり	配布プリントを事前に確認
		各コマにおける授業予定	アメリカ、シアトルにて研修（高齢者施設見学）		
第13回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	海外研修を通し現地を知ることができる	海外研修のしおり	配布プリントを事前に確認
		各コマにおける授業予定	アメリカ、シアトルにて研修（高齢者施設見学）		
第14回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	海外研修を通し現地を知ることができる	海外研修のしおり	海外研修のしおりを事前に確認
		各コマにおける授業予定	アメリカ、シアトルにて研修（まとめ、振り返り、修了式）		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	海外研修報告会で振り返りを行い、学びを深めることができる	配布プリント	配布プリントを事前に確認
		各コマにおける授業予定	海外研修の内容をまとめ、1年生に向けて発表		

2026　年度 授業計画(シラバス)　　大阪保健福祉専門学校

学　科	介護福祉科	科目区分	専門分野	授業の方法	実習
科目名	介護実習Ⅱ	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	376 (8) 時間(単位)
対象学年	1･2年生	学期及び曜時限	通年　2月･8月	教室名	実習施設
担当教員	清水　公二　他	実務経験とその関連資格	介護福祉士。特別養護老人ホームにて約10年勤務		

《授業科目における学習内容》

学校で学んだ理論や方法を施設実習でⅡ－①、②と展開し体験して、個々の利用者に合わせた日常生活の介護の応用能力を養う

《成績評価の方法と基準》

実習評価表:50%　実習日誌記録物:50%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

教科書:実習と記録　滋慶教育科学研究所

《授業外における学習方法》

全ての教科の授業内容が関連し、施設での総合的、応用的な知識、技術の実践を行う。そのため、今まで学んだ内容の復習及び事前学習を自ら行うことを求めている。

《履修に当たっての留意点》

介護過程の授業との関連性から、介護計画立案、実施、評価を行います。授業内容を理解し、利用者個別の介護計画の立案に向けて取り組んでいくこと。

授業の方法		内容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	実習形式	授業を通じての到達目標	利用者の個別性を尊重した自立支援のあり方を理解し，その人らしさを引き出すことができる	教科書:実習と記録　滋慶教育科学研究所	･教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ･授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	個別ケア、自立支援について、その人らしさ		
第2回	実習形式	授業を通じての到達目標	行事やレクリエーション等の意義を理解できている	教科書:実習と記録　滋慶教育科学研究所	･教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ･授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	行事やレクリエーション等の意義を学ぶ		
第3回	実習形式	授業を通じての到達目標	参加者の様子，介護者の関わりを観察し、情報把握、収集ができる	教科書:実習と記録　滋慶教育科学研究所	･教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ･授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	参加者の様子，介護者の関わりを観察する		
第4回	実習形式	授業を通じての到達目標	準備，実施，評価等介護者の役割について理解する	教科書:実習と記録　滋慶教育科学研究所	･教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ･授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	レクリエーションを企画，運営し，評価を行う		
第5回	実習形式	授業を通じての到達目標	老人福祉法制定後の介護に関連する施策の概要を理解することができる。	教科書:実習と記録　滋慶教育科学研究所	･教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ･授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	介護保険法に至る中での、日本の介護福祉の変化のありようについて理解し、今日の介護について知る。		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	実習形式	授業を通じての到達目標	介護福祉士としての一連の介護過程の展開を実践することができる	教科書:実習と記録　滋慶教育科学研究所	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	介護過程の展開についての復習		
第7回	実習形式	授業を通じての到達目標	情報収集し，アセスメントができる	教科書:実習と記録　滋慶教育科学研究所	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	介護過程の情収集、アセスメントについて		
第8回	実習形式	授業を通じての到達目標	生活課題の明確化・立案ができる	教科書:実習と記録　滋慶教育科学研究所	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	生活課題の明確化・立案		
第9回	実習形式	授業を通じての到達目標	介護計画に基づき，実施ができる	教科書:実習と記録　滋慶教育科学研究所	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	介護計画の理解、計画の実施		
第10回	実習形式	授業を通じての到達目標	実施したことを評価・修正できる	教科書:実習と記録　滋慶教育科学研究所	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	介護計画の実施後の評価、修正、再アセスメント		
第11回	実習形式	授業を通じての到達目標	多職種協働や関係機関との連携を通じたチームの一員として介護を遂行することができる	教科書:実習と記録　滋慶教育科学研究所	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	多職種連携、チームケアについて		
第12回	実習形式	授業を通じての到達目標	変則勤務における情報の共有がおこなえる	教科書:実習と記録　滋慶教育科学研究所	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	変則勤務（早，遅，夜間）を理解する 情報共有の方法について知る		
第13回	実習形式	授業を通じての到達目標	利用者の継続的な観察の重要性について理解できる	教科書:実習と記録　滋慶教育科学研究所	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	24時間ケアを提供することの意味、継続性について		
第14回	実習形式	授業を通じての到達目標	介護福祉士を目指すものとして専門性のあり方を理解できる	教科書:実習と記録　滋慶教育科学研究所	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	ICFの視点、求められる介護福祉士像		
第15回	実習形式	授業を通じての到達目標	利用者の「できる活動」を見出し，「する活動」へと支援することができる	教科書:実習と記録　滋慶教育科学研究所	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	ICFの視点、求められる介護福祉士像		